

税

明治四十二年七月

關稅調書

皮革毛、飼料

第四十六号

農務局

2-1326

0009

品名	現行開税率	改正
毛皮	五割	同上
牛皮水牛皮	百斤一。(五割)	同上
鹿皮	百斤四。(二割)	同上
山馬皮	百斤二。(一割)	同上
靴底革	百斤六。(九割五分)	百斤一三。(二割)
印度紅革	百斤一。(一割)	百斤七。(二割)
山塗皮	百斤一。(一割)	百斤三。(二割)
其他	百斤一。(一割)	百斤一七。(二割)

皮革、毛、獸、骨

2-1326



羊革	限定百斤	一割	国定百斤二三四〇(三割)
羚羊皮	限定百斤	一割	国定百斤五五〇(三割)
豚毛		三割	同上
煙毛	百斤三三五〇(一割)		同上
馬毛	百斤五八〇(一割)		同上
其他		一割	同上
豚脂	百斤	五八〇(二割)	同上
其他	百斤	三四(一割)	同上

前表列記各品本邦生産僅少ナルモ又ハ皆無ニテ二等輸入ニ對シ競争的地位在毛

及ニ

殆ど無之表記、如ク工業原料品ニ薄ク半加工又ハ加工品ニ厚キ關稅率ハ本邦工業ノ保護上最モ必要ナルヲ認ム故ニ特ニ著シキ要更ニ要ヤ人国定ノモノハ其儘ニ据置キ限定ノモノ国定ニ引直セハスレリ

左ニ皮革類ノ輸入額輸入状況及用途ノ概要ヲ掲

テテ参照ニ使ス

(一) 生皮

年次	牛皮及水牛皮 量	牛皮 價格	馬 量	馬 價格	山羊 量	山羊 價格	山羊(阿勝) 價格
三十一年	2,333,333	2,299	1,270,000	6,268	1,290,000	1,100	
三十二年	3,048,000	2,299	3,470,000	8,597	6,270	1,000	
三十三年	2,920,000	2,299	3,710,000	9,270	1,430,000	1,000	
三十四年	3,000,000	2,299	3,370,000	8,597	1,300,000	1,000	
三十五年	3,333,333	2,299	3,470,000	8,597	1,300,000	1,000	
三十六年	3,000,000	2,299	3,370,000	8,597	1,300,000	1,000	
三十七年	2,400,000	2,299	3,370,000	8,597	1,300,000	1,000	
三十八年	2,299,000	2,299	3,370,000	8,597	1,300,000	1,000	
三十九年	2,299,000	2,299	3,370,000	8,597	1,300,000	1,000	
四十年	2,299,000	2,299	3,370,000	8,597	1,300,000	1,000	

皮二

牛皮及水牛皮は三十七年、馬路用戦と同時に軍用靴及背囊原料として需用大に増加せし爲に最多額輸入を見し。其後三十九年迄漸減し四十年に到り再び増加を見し。到り蓋近年本邦製革業の進歩と軍備の擴張とより多大の生皮を要するに係る。故に牧畜業の高歩幼稚にして屠牛の數も比較的少キニ上ラサル爲に依然外國より多額輸入を仰ぐ。現状より而して従来韓國より輸入するに最モ多キヨリトシガ三十七年清國より輸入を之と伯仲す。

2-1 3 2 6



ニ至リ

韓国産牛皮及水牛皮其大部軍隊背囊用ニ
 供シ其他靴靴、白鞣革機械帶革等ノ
 原料ニ供サレ副産物タル屑革、阿膠原料トシ
 テ需用多クト云フ
 水牛皮ハ従来多ク雪駄、底革、田舎白靴、底革
 ニ使用サレシカ近年牛皮、贖費ニ伴ヒ帶革トシ
 モ亦使用セラル
 鹿皮ハ主に下駄、鼻緒及袋物用革ノ原料ニ山

皮ニ

馬皮ハ小兒用トシラシ及下等靴用革ノ原料ニ
 供スルモノトイ
 三 牛革、水牛革

年次	鞣革 量	印度紅革 價格	金革 價格	水牛皮及水牛革 價格	其他 價格
二十二年	二、〇、七二	五、九、九			
二十三年	一、五、〇五	六、〇、七六			
二十四年	八、七、〇五	五、〇、七三			
二十五年	七、六、七三	五、三、三三			



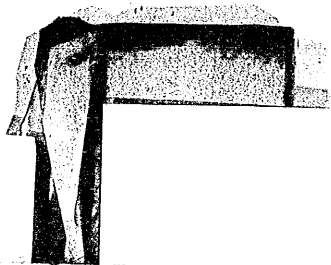
三十八年	九三三六〇	六二二二六	六四〇六六	三三三三三	一	一	一
三十九年	九三三六〇	六二二二六	六四〇六六	三三三三三	一	一	一
四十年	九三三六〇	六二二二六	六四〇六六	三三三三三	一	一	一

革類輸入三十八年三軍隊用靴底革、需用劇
 増セント共多額、見越輸入アリシモ三十九年著
 シク減シ、四十年ニ至リ漸ク順境ニ復ヤリ
 靴底革ハ米回品其大部ヲ占メ英國品之次ク

三十八年ニ獨逸及歐洲ヨリモ成ニ下等品輸入
 アリシカ三十九年以來大ニ減少セリ
 印度紅革ハ靴中底ノ底心トシテ使用スル外需
 用極メ狭ク隨テ其輸入額モ他製革ニ比シテ多
 ナラス加之近年内地製靴底革、不合格品ノ多クハ
 本品代用ニ供セラルル故ニ更ニ輸入ノ減少ヲ促シ

(三) 羊革類

年次	羊革		羚羊革		ローライナー		其他革	
	量	價格	量	價格	量	價格	量	價格
三十八年								
三十九年								
四十年								



年次	羊革		輪羊革		ローラー革		其他革	
	量	價格	量	價格	量	價格	量	價格
三十二年							11,481,171	1,040,111
三十三年							11,481,171	1,040,111
三十四年							11,481,171	1,040,111
三十五年	3,014,477	3,946,600					11,481,171	1,040,111
三十六年	3,600,700	4,670,400					11,481,171	1,040,111
三十七年	3,761,300	4,978,800					11,481,171	1,040,111

(三) 羊革類

本品代用ニ供セラルルカ故ニ更ニ輸入ノ減少ヲ促シ

2-1326



三十二年							四三三九	五八〇六
三十三年							四七〇〇	五〇〇三
三十四年							四七七〇	四九三三
三十五年							四八六四	四九四四
三十六年							五三三九	五三三九
三十七年							五三三九	五三三九
三十八年							五三三九	五三三九
三十九年							五三三九	五三三九
四十年							五三三九	五三三九

皮

羊革、英領印度及海峽殖民地より輸入スルモノ最
 多シ而シテ此方面ヨリスルモノハ主トシテ山羊革ニシ
 テ本邦羊細工業ノ盛況ニ連シテ逐年輸入増加貌
 アリ又英米獨リ輸入スルモノハフキツトニシテ是亦尙
 行多シト云フ山羊革ハ多ク白鞣革トシテ輸入セ
 ニレ加工ノ際種々棕色ヲ施シ座蒲團椅子張
 馬車及像車ノ内張靴製本錢入其他袋
 物用ニ供ニシレキト靴手袋上等靴等使用
 其外製革中輸入多キ公認羊革々々トシテ

2-1 3 2 6



一、カシミア、羊、防寒用短衣、革靴、
 内服、鍍入、裏革時計、包革、機械類、
 拭磨ニ使用セシ、コーラー、サ、山、主トシテ、英國
 輸入上等調革ニ用ヒラル
 (一) 牛皮及水牛皮

清國	四十一年	一八二、三八三	三十九年	一四四、六二五	三十八年	二九、九七三	三十七年	二七、四七三	三十六年	八、九三六
清國	四十一年	七、六二九	三十九年	四、三三三	三十八年	一、七五五	三十七年	一、〇一四	三十六年	一、七六三
清國	四十一年	一、五七五	三十九年	一、六三三	三十八年	一、七四五	三十七年	一、〇一四	三十六年	一、七六三
清國	四十一年	五、七九六	三十九年	五、八八七	三十八年	六、四九〇	三十七年	六、六三三	三十六年	六、四三三
清國	四十一年	一、〇五八	三十九年	一、三四九	三十八年	一、三三三	三十七年	一、九七二	三十六年	二、一八一
清國	四十一年	五、二〇四	三十九年	三、三三六	三十八年	一、八四一	三十七年	一、九七二	三十六年	二、一八一

海峽植民地	四十一年	一、二八八	三十九年	七、四六六	三十八年	二、九一七	三十七年	四、一七二	三十六年	一、〇八七
佛領印度	四十一年	三、三六三	三十九年	一、七三四	三十八年	四、八〇七	三十七年	二、九一七	三十六年	一、〇八七
英吉利	四十一年	八、六八八	三十九年	八、八四三	三十八年	四、一七二	三十七年	二、九一七	三十六年	一、〇八七
佛蘭西	四十一年	一、六〇六	三十九年	一、四三三	三十八年	一、〇九二	三十七年	一、〇九二	三十六年	一、〇九二
獨逸	四十一年	三、五八七	三十九年	三、四一三	三十八年	一、九六七	三十七年	一、九六七	三十六年	二、三三三
日耳曼	四十一年	一、四一九	三十九年	一、三六四	三十八年	六、七二五	三十七年	六、八九七	三十六年	七、一七四
北合衆國	四十一年	七、三三三	三十九年	七、四九七	三十八年	一、七五五	三十七年	一、七五五	三十六年	二、三三三
濠洲	四十一年	二、四六八	三十九年	二、九九九	三十八年	一、九七二	三十七年	一、九七二	三十六年	二、三三三
濠洲	四十一年	八、七七七	三十九年	一、九九九	三十八年	六、四三三	三十七年	八、五七七	三十六年	一、三三三

2-1326

2-1326

三 年 革					計 其 他					
佛 領 印 度	海 峽 殖 民 地	英 領 荷 屬	清 國 領 土	四 十 年	三 十 九 年	三 十 八 年	三 十 七 年	三 十 六 年	計	其 他
一五〇、七〇四	一七、八〇七	二二、五九三	一四、二九二	二一、七九二	一九、七三三	二〇、九三三	二一、一三三	二一、一三三	二一、七九二	二一、七九二
一四、四三八	一七、八〇七	二二、五九三	一四、二九二	一九、七三三	二〇、九三三	二一、一三三	二一、一三三	二一、一三三	二一、七九二	二一、七九二
一五〇、七〇四	一七、八〇七	二二、五九三	一四、二九二	二一、七九二	一九、七三三	二〇、九三三	二一、一三三	二一、一三三	二一、七九二	二一、七九二
一五〇、七〇四	一七、八〇七	二二、五九三	一四、二九二	二一、七九二	一九、七三三	二〇、九三三	二一、一三三	二一、一三三	二一、七九二	二一、七九二
一五〇、七〇四	一七、八〇七	二二、五九三	一四、二九二	二一、七九二	一九、七三三	二〇、九三三	二一、一三三	二一、一三三	二一、七九二	二一、七九二
一五〇、七〇四	一七、八〇七	二二、五九三	一四、二九二	二一、七九二	一九、七三三	二〇、九三三	二一、一三三	二一、一三三	二一、七九二	二一、七九二
一五〇、七〇四	一七、八〇七	二二、五九三	一四、二九二	二一、七九二	一九、七三三	二〇、九三三	二一、一三三	二一、一三三	二一、七九二	二一、七九二
一五〇、七〇四	一七、八〇七	二二、五九三	一四、二九二	二一、七九二	一九、七三三	二〇、九三三	二一、一三三	二一、一三三	二一、七九二	二一、七九二
一五〇、七〇四	一七、八〇七	二二、五九三	一四、二九二	二一、七九二	一九、七三三	二〇、九三三	二一、一三三	二一、一三三	二一、七九二	二一、七九二

印度紅華
 同 一斗
 由 華 (一斗)
 獨乙ホッソスカーフ
 木園口
 茶色ロニアニカーフ
 羊 華 1 (百斤)
 同 1

六二〇〇	六三〇〇	六三〇〇
五六〇〇	五六〇〇	五六〇〇
六〇	六〇	六〇
五二	五四	五五
四七五	四八五	四九
一九〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇
一七五〇	一九五〇	一九〇〇

本類最近三々年間於トル横濱相場左如シ
 四十年 三十九年
 米利堅象皮番 八三九
 四十年 八七〇
 三十九年 八三九
 其 他
 此 合 象 皮
 獨 逸
 伊 蘭 西
 英 吉 利

六八七二	四四七五	四八四七
一〇九七	一八四九	四六六四
二八一七	四二九六	三〇六八
四一七四	五三三五	三五六一
三九二七	二九九二	三三七八
三三七八	五九九九	二六三六
四一〇六	六九九六	二七三六
三三三三	三三三三	九三三三
三三三三	三三三三	四三三三
三三三三	三三三三	四三三三

2-1326



輸出地を取引慣例

米國より取引普通往々各埠共ニ銀行信用状ヲ

送付シ品物ハ荷爲替附シ送付シ来ルテ常トシ値

段多ク是ニ引合ヲナスナリ

米國ハ重ニ桑捲又ハホストン積出ニテ就中桑

捲最善多シ

荷造方法並運賃

皮革類、荷造ハ靴底革ノ印度紅革等、裸ノマ

繩拭トシ油革ボツノスカーク羊革ハ十打乃至廿打

皮上

箱入トス

靴底革 米國ヨリ本邦ニテノ運賃ハ百封度

ニ在リ内ハ十二封乃至二十四封ニテ横濱東

京間運賃ハ百封内凡十八封之ニ載出配達

賃等ヲ加マレト場所、遠近ニ依リ凡二十一封

ヨリ二十封ニ要スト云フ

輸入高、別及萬

皮革類ノ神戸港輸入類ヲ内外高取扱高

ニ依リ區別スルハ左ノ如シ

2-1 3 2 6

0020

三十九年	四十一年
内商輸入額	内商輸入額
二八〇・一四三	三七二・二七四
外高輸入額	外高輸入額
七一七・四七七	八四六・三二八
計	計
九九七・六二〇	一二一八・六〇二

四〇

2-1 3 2 6

0021

乾草(乾牧草)

税率改正

現行 百斤当 拾貳錢(従價率) 改正 拾貳

理由

本邦ノ如キ耕地面積狭少ニ從テ地代ノ不廉在所ニ
於テ家畜ヲ飼養セトスルニ廉價ノ飼料外國
産本品ノ輸入ヲ必要トスルコトアリ殊ニ種畜其他優
等家畜ヲ飼養スル場合ニ於テ然リトス而シテ本品

2-1326

0022

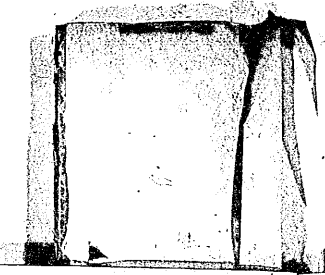
輸入の極少に僅少に其の最も多ク輸入せられたる
 年上雖も其金額ハ僅ニ五千四百ニ過キス從テ本邦
 農業ノ發達上殆ト何等ノ影響ヲ与ヘキカ如ク更ニ
 關稅率ヲ增加スルノ要ヲ認メス
 尤ニ參考ニ爲テ四十年、四十二年ニ於テ乾草ノ輸入額ヲ
 國別ニ分類表示ス

乾草輸入表

輸入地	明治四十年		明治四十一年	
	数量	價額	数量	價額
英領東洋	三萬五千	一萬七千七百	三萬九千	二萬五千五百
英領西伯利亞	一萬五千	三千三百	四萬五千	一萬九千
英領西伯利亞	一萬五千	三千三百	一萬九千	六千七百
英領西伯利亞	七千六百	一千四百	一	一
支那	五十九	一	一	一
計	三六〇三三	一七七八	二七、八一	五、〇三四

2-1 3 2 6

0023



飼料雑類(乾草ヲ除ク)

現行統率

百廿七圓七錢(従價券)

改正要十シ

理由

飼料雑類ハ亞麻仁粕其他飼料ニ供用スル
雜品ヲ含ムモノニシテ十數ヶ國ヨリ輸入スル其金
額ハ四、五兩年共ニ四萬四千圓内外ナリ優等
ナル種畠勿論飼料トシテ好適也亞麻仁粕ハ

2-1 3 2 6

0024

加千本々本邦生産セザルモハ外國品ヲ仰クヨリ
 外産ナリ而モ輸入金額ハ總テ五萬四千陸
 多額ニテ本邦農業ノ發達上強シト影響
 至深ニシテ從テ國稅率ヲ改ムルノ要ヲ認メス
 尤ニ飼料雜類ノ輸入ノ國別ニ表示シ參考ニ供
 ス

飼料雜類輸入表

輸入先	四十年	四十一年
支那	四四九六〇斤	七五三九五
南東州	一	七〇五一
韓國	七六四九	三七五八
南領印度	一	一五七
香港	八六五三	三三八五四
露領亞細亞	七六千〇	四六八八六
英吉利	二四一	六九八

2-1326

0025

北米合衆國	和蘭	英領東利加	英領西印度	不詳	總計	總價額
四七七四	一	一五七	九二六	九八六	八二〇	四六三四
一五〇三	一	四六二	一	一	八七四	四三六九

2-1 3 2 6

0026

穀

税率改正意見

現行	改正
車荷推載(従價)	直捨錢(従價割)

税率改正理由

需要

一 穀ハ小麦成分中ノ澱粉質ヲ除キ凡穀皮及一種ノ
 蛋白質層ノ合称ニシテ小麦製粉業ノ副産物ナリ
 廣ク家畜ノ飼料ニ供用セリ特ニ比較的脂肪分

2-1326

0027

及蛋白質貨物ノ数量ニ含有セル糖ヲ搾乳用牛ノ
 濃厚飼料トシテ経済的ニシテ草地ノ効アリ且時
 我國産牛ノ業績ニ興隆シ飼養育成穀ノ消
 費スル範圍益々擴大スルニ至ル之ヲ消費量ヲ
 調査スルニ甲午年度ニ於テ清國、露西亞等ヨ
 リ輸入セリ且ノ一千三百七拾七萬四千七百
 キニ及リ其ノ價格果ニ六十七万餘円ニ達ス之ニ内
 地産ノ穀ヲ加レハ蓋シ其ノ數莫大ニ量ニ達ス
 二之ヲ産牛業將來ノ發展ニ鑑正ニ飼料トシテノ

穀ノ需用益々多キヲ知ルハ米シテ豫想スル難
 カラス今明治三十年ヨリ四十年間ニ於テ牛種ノ
 異動ヲ考察スルニ内國種ノ如キ全ク穀ノ飼料
 トスル慣行ナキ牛種ハ年々急速ノ勢ヲ以テ減少シ
 雜種以上ノ牛種ニシテ多ク穀ヲ要スル牛種内國
 種減耗率ヨリ以上ノ増加率ヲ以テ増加スルヲ見
 ルモ之ヲ察知スルヲ得ルモノトス

三十年	内國種	雜種	外國種	合計
四十年	一七、七三〇	七〇、六三九	一五、七九四	一〇四、一六三
	八、九七二	三三、三八八	二、三七一	三三、〇三一

即チ三十年ニ於ケル内國種牛數ノ十一ヶ年度ノ早
 年ニ於テ牛數ハ數字ニ於テ既ニ三三万九千七百
 五十八頭ノ減少ヲ示ス之ニ及シテ雜種ト稱スルハ實
 拾五万三千百七拾九頭ノ増加ヲ見ル即チ十年ニ萬
 三千六百頭ノ割合ヲ以テ増加シ来リタモノリ外
 國種ニ於テ七五千百七十七頭ノ増加ニシテ十年平均
 四萬七拾頭ノ割合ヲ以テ増加ス若シ此數ニ於テ大凡
 異動ナキモトセハ將來十年ノ後即チ明治五十年
 ニ於テハ雜種及外國種ノ數ハ九ノ地ノ増加ス

雜種 外國種 合計

四十年	三三三八八	二六七一	三四五八九
三十年	五五七七八	二六〇七一	六〇〇四九

而シテ本邦産ノ數ハ毎年度額ニ米國太平洋沿岸
 ニ輸出セルモノト其額不詳ナルヲ以テ後ニ生産ノ
 半額即チ一五萬人ノ四割ヲ以テ平均輸出額トス
 トキハ四十年度ニ於ケル内地ノ消費額尤ノ地トシ

一八八六五四二七六五
 一五四七八〇二〇四五
 内地生産半額

2-1326

0029

三三八七四〇七三〇

茲ルトキハ四十年ニ於テハ種牛ノ外同種牛ノ數ハ三四六二八九頭トシテ其ノ額ハ今年ヨリ平均七百四十七ノ數ヲ消費スルモノナリトシテ、數ヲ基テ明
況今年・即チ今年後ニ於テ數ノ消費高ク際測スルトキハ其ノ數量ハ消費ニ

三一七二八〇八〇三ノ達ス

之ニ依リ將來ヲ推測セバ數ノ需用ハ産牛業ノ發
展トシテ將來益々増加スルハ疑ヲ容レズ

供給

從來我國ニ於テ數ノ供給ハ一部素麵製菓業者ノ手ニ依リ供給セラルモ近時内地ノ製粉業者ニ其數ヲ増加シ且ツ外國製粉ノ輸入者キカ爲メ素麵業者ハ此等製粉ノ便宜ニ從來製菓業者ニ
ニ變化ヲ来スル同時ニ近時ノ數供給ハ大部分外國品及内地製粉業者ノ手ニ委セテ之ニ至リ然
而シテ内地ニ於テ供給ノ數量ハ今ノ全般ノ統計ヲ缺クテ故ニ精細ニ之ヲ知ルコトヲ得サルモ四十年
ニ於テ農務局ノ調査ニ依リ製粉量六億五千七百八十一万五千八百七十六斤ヲ基トシテ推定

試験場ニ接し製粉ノ穀ノ生産量ノ報告依
 六島ノ製粉ニ對シ穀ノ生産量ヲ五乃
 至四〇%トシ今ノ中庫量三三%ノ製
 粉會社調査ハ二五%乃至三〇%ナリ
 又上キ、一九三三億〇九百六十六萬〇四百〇斤ノ内地
 二控テ生産セラル、モナリ一方外國輸入ノ穀ヲ調査ス
 ルニ九ノ概シ

年次	数量	價	額
四十二年	三三、七四〇、四六九	七四、三、三二四	
四十一年	三三、八七四、七二九	六七、五、三八〇	
四十三年	二二、四九七、三三〇	四六、七、三〇九	(背点)

以上如ク外國ニ接シ穀ノ消費量ハ産牛ノ発
 展ト共ニ年々増加シ之ヲ供給モ製粉業者ノ
 興隆ニ依リ善ク内地ノ需用ヲ充タシテ餘アリ
 モ外國産ノ穀猶筆ノ額ノ輸入ヲ見ルハ見奇
 トス所ナリト云内旭産ノ穀ハ之ヲ本國産ノ穀比
 價格廉ニテ噸毎運搬費、保険料ヲ加ルモ
 本國産ノ時價ニ對シ猶亦括内外ノ利益ヲ有
 スルモノナカ故ニ之ヲ本國ニ輸出スルモノ亦キニ至リ
 (四三年三月貿易新報其ノ数量不明)然ルニ外國生



産ノ穀ノ之レヲ坊間ニ使用セル結果ニ依ルニ品質
 粗悪ニシテ混合物多ク從テ我國生産ノ穀ニ比シ
 テ滋養含有量ニ大ニ差アリ産牛業ノ發達ハ
 飼料ノ改良ニ依ルニ最モ急ヲ要スナリ且租馬ノ
 物品ニシテ價格ノ低廉ナルヲ及テ畜牛ノ衛生状態
 ニ惡結果ヲ及ホスモ此ハ論ヲ俟タズ故ニ今内地産
 ノ穀ト外國産ノ穀トノ價格ヲ比較スルニ百斤ニ付
 外國穀四圓拾五ニ對シ内地産ハ三圓拾五乃至
 二圓五ニ外國産ノ輸入ヲ防止シ且産牛業健

全ク米達ヲ期スル者ナリ現行稅率ト比シテ割三止
 日本セルルハ差引外國産ノ穀ト内地産ノ穀ト
 均等ヲ取リ以テ輸入ヲ防止シ得ルモノト認ム

(参考)

外國稅率
 獨逸 一〇のキロ
 佛蘭西 〇
 伯耳義 〇
 アストリア 〇
 ハンガリア 〇
 濠洲 〇
 六ノキ
 無稅
 無稅
 無稅

4



同調牙 号

革類(附、毛皮、獸皮)関税調書

商工局

2-1 3 2 6

0033

革類(附、毛皮、獸皮) 甲

改正税率

品名	改正税率	旧税率	備考
牛革及水牛革	5%	5%	
甲靴底革	5%	5%	
乙、印度紅革	9%	9%	
丙其他(暹羅、爪哇、馬來、菲律賓、荷屬東印度、英屬婆羅洲、荷屬東印度、英屬婆羅洲、荷屬東印度、英屬婆羅洲)	1%	1%	
丁羊革	25%	25%	

品名	改正税率	旧税率	備考
三、羚羊革	5%	5%	
四、野馬革	5%	5%	
五、口ラ革	5%	5%	
六、淡色革(着色)	5%	5%	
七、馬革	5%	5%	
八、其他革	5%	5%	

毛皮、獸皮

Handwritten notes and additional entries related to fur and animal skins, including various types of skins and their respective tax rates.

六五 毛皮	一羊皮及山羊皮 二其他	国産羊皮 五割	国産羊皮 五割
六六 獸皮	無	無	四 三山馬皮 二〇〇割
六七 膚皮 (可製法用不 肥料用)	無	無	四其他 從優一割 無税

革
一
二

一 品目改正要領
 一 稅表番号六八第一頁ノ丙其他ノ中ヨリ畜革
 染色革、着色革ヲ削ル
 二 稅表番号六八第二項中ヨリ染色革、着色革削
 三 丙
 一 其他ヲ價改線ノ下ク
 一 型件革ヲ加メ以下屠革
 三 品目及税率改正理由

由來革類ハ日用必要ノ材料ニ屬シ其ノ所
 天逐年増加ノ一方ニシテ之カ製造工費亦七輕
 視スヘカウガハ人知ラズシカハ所ナリ今則チ革業

2-1326

0035

對立我國其視ルニ原料皮中牛皮、猪皮、供
 給ハ到極其需要ヲ充スニ足ラズト雖も、附
 近ニ韓國、清國、印度、暹羅州等ノ如キ有ル
 牛、羊、馬、皮ノ産出国、P、是等ノ皮類ハ遠
 東ニ製送シ家ノ手ニ渡リテ後、製革トナリ
 予再ニ輸入シ来ルモノ多シ、此原料皮ヲ保護ス
 輸入ニ是カ利用ノ途ヲ開カハ當ニ輸入品ヲ防遏
 己得ヘキニテ、近ニテハ東洋市場ニ盛ナル販路
 ヲ有コ得ヘキナリ、然ルニ從來製革業ノ振
 ハサル所以ハ一面技術ノ練熟、進歩ニ在リ、
 ルノ莫キニテ、ラサリシモノ、一面ニハ原料皮ノ高價ナ
 ルト使用藥品ノ得易カラサルトニ在リ、此加ハ

革

テ輸入品ノ品、由價一定ニ價格比較的低廉ナ
 ルニ對抗シ得サル儀、モ、ニテ技術上ノ熟練ノ需
 要増加ノ趨勢、對シ我製革業ノ經營上
 ニ一歩ヲ進シメ、今、日ノ技術ニ於テ相當ノ保護
 ヲ与ヘ、是カ興起ヲ畫スヘキハ、素ヨリ其所ナレバ
 是等材料品ニ重稅ヲ課シ、其間接ノ結果トシテ
 製革増産ヲ昇騰セシムルノ不利亦、深ク覺ル所
 ナカルハ、カラス故ニ、製革原料ニシテ到底向
 後供給ノ見込ナキ原料皮ニ對シテハ、悉ク無稅
 トシ、供給ノ見込有キ原料皮ニ對シテハ、悉ク無稅
 稅類ヲ最低稅率ト定ムルヲ適當ナリト認ム
 コトヲ、一、サ、ハ工業上ニ必需ノモノニ屬シ、未タ



内地製成品ニ據ルヲ得サレバ状況ナルヲ以テ特ニ
 一割五分ノ標準ニ依ルニ毎百斤九十円十斤ノ
 税額ヲ採用スルヲ望ムトス其税額ニ對シ
 キ差違ヲ生スルハ輸入平均價格ノ變動ニ
 依ルニシテ五トシテ特種製成品ノ兩面ニ對シテ
 ニ依ル

染色皮革ノ着色皮革、漆皮革、型皮革等ノ集ホナ
 ナラシメ一税目ト志ルハ其加工皮革ノ性質ヲ
 原料ニ依リ已別スルコトノ實際ニ不便多ク
 ト便格標準ノ他ノ普通皮革ト一般ニ同シテ律
 スハカクモ依ル

皮革ノ原料皮トシテ製皮革上必要ナルモノニ属
 我國ニハ生産自出ナキヲ以テ特ニ他ノ諸國
 皮類ヨリ運方ニ一割ノ税額トナシキツト製
 皮革業ニ對スルヲ適者トス

(甲) 靴底革
 (乙) 牛革及水牛革

輸入 数量 年計 表		輸入 國別 年計 表	
三十九年	二四八、七〇九	三十九年	二九、〇〇九
四十年	二五七、八〇八	四十年	二八、六三〇
四十一年	二五九、七三〇	四十一年	二八、〇九〇

此ニ據ルヲ得サレバ状況ナルヲ以
 ニ毎百斤九十円十斤ノ



国別	数量	價格	数量	價格
英領印度	五〇七	八三三	二八九	六三三
英領西貢	三〇一	八三三	二八九	六三三
英領暹羅	三〇一	八三三	二八九	六三三
英領緬甸	三〇一	八三三	二八九	六三三
英領馬來	三〇一	八三三	二八九	六三三
英領荷屬東印度	三〇一	八三三	二八九	六三三
英領南洋羣島	三〇一	八三三	二八九	六三三
英領其他諸島	三〇一	八三三	二八九	六三三

(乙) 印度紅筆輸入三年對比表

年	数量	價格
三十九年	三三三	三三三
四十年	三三三	三三三
四十一年	三三三	三三三

国別	数量	價格	数量	價格
暹羅	三三	二四	三三	二四
英領西貢	二八	九七	二八	九七
英領緬甸	二八	九七	二八	九七
英領馬來	二八	九七	二八	九七
英領荷屬東印度	二八	九七	二八	九七
英領南洋羣島	二八	九七	二八	九七
英領其他諸島	二八	九七	二八	九七

2-1326



(丙) 其他

イ、陸、海、空

三十九年
四十年
四十一年

輸入三十九年間對照表	
數量	價額
四四、三三五	六〇、七三三
四六、八八七	五九、七〇六

國別 輸入國別三十九年間對照表
四十一年 四十一年

國別	數量	價額	數量	價額
韓國	一	一	一	二
露領亞細亞	一二	三五七	六九	八〇九
英吉利	一五	二二〇	七九	一八六
佛蘭西	三三	四九一	一四	五九九
獨逸	四〇	五七三	三三	三九四
北米合衆國	一八	二一〇	一	一
其他諸國	一	一	一	一

口 其他
輸入三十九年間對照表

2-1326



四十一年	四十一年
数量	数量
一三七二六二	一七八六二四
價額	價額
三五三七・六	四一六七・八

輸入國別二十年間對照表

國別	四十一年	四十一年
清國	数量 二八五	價額 二九七
英吉利	数量 五九五	價額 七三九
佛蘭西	数量 二一四	價額 六三七
獨逸	数量 二六八	價額 一〇五
北米合衆國	数量 六九三	價額 三三九
濠洲	数量 八九七	價額 二五七
其他諸國	数量 六四八	價額 一八〇
	数量 二一八	價額 一〇五
	数量 二六八	價額 一〇五
	数量 六九三	價額 三三九
	数量 八九七	價額 二五七
	数量 六四八	價額 一八〇

2-1 3 2 6

0040

輸出入統計表

熟皮

輸出三ヶ年間対照表

年	数量	金額
三十九年	三九六、七九三斤	六一〇、八四五円
四十年	二一三、八五一	三〇三、〇九四
四十一年	一九六、七〇二	二七〇、八二七

輸出國別三ヶ年間対照表

國別	三十九年		四十一年	
	数量	金額	数量	金額
清國	一八、五五五	二、〇八五	四、三七二	九、一四八
閩東州	一、九六九	九、〇六七	一、六六一	一七、一八四
韓國	九、〇八三	一八、七三三	二、四〇八	二、六二二
香港	一、八六三	一八、〇九二	二、六九四	九、〇六五
露領西伯利亞	九三、四四四	一八、一三五	七、四〇九	九、四六六
英吉利	二、〇三七	四、四九七	三、一四六	六、一九七
佛蘭西	六三、七九〇	一三、〇九七	一、〇三七	二、三三一
獨逸	一三、〇五一	二、八三三	一、五九五	二、六三三
北米合衆	一、〇九五	二、二二六	二、〇三四	三、八八七
英領東洋	四、二八一	九、四三七	二、一八九	四、四〇二
露大刺利	六、〇五	一、四〇九	三、一三	五、〇七
其他諸國				



(2) 羊草

輸入三ヶ年間対照表

三十九年	五三八、一三二斤	七四、一九六、〇
四十年	五七二、一〇九	七五、八八三、一
四十一年	五、五九〇、七九	七〇、五九九、九

清國
關東州

輸入三ヶ年間対照表

三十九年	一、八五三、八斤	二、二八五、四	一、四一五、四斤	七、六八八、四	一、一九七、七斤	八、七三三、〇
四十年						
四十一年						

英領印度
全海峽殖民地
併領印度
英吉利
佛蘭西
荷屬東印度
其他諸國

(3) 鈴羊草
輸入三ヶ年間対照表

数量 價額

英領印度	一、五二七、七	一九、四九、九	二、〇六、一五二	三、五九、三三〇	三、五〇、九八九	三、七八、〇六〇
全海峽殖民地	一、〇二九、三	一、五三、九七九	一、八五、一一〇	一、七八、五七七	一、五四、三五〇	一、五〇、〇四五
併領印度	七〇、九九九	七、九、三二九	一、四、四三八	一、五〇、六四四	一、一一、九九八	三、五九、五七
英吉利	四、四三三、三	一、五八、四九五	五、八、七二一	一、〇九、九五四	一一、二、九九八	三、五九、五七
佛蘭西	四、八、三九六	五、三、三三五	二、八、一、五五	四、四、一、八四	一一、二、四七	三、五、四、六
荷屬東印度	二、九、九二	五、五、九	九、二、〇七	三、二、七八二	七、三、五、二	二、五、七、七九
其他諸國	三、三、〇七	三、一、三一	四、一、〇、六	一、三、一、五三三	二、四、六、五〇	九、九、六、八
合計	三、七、五	五、五、八	一、〇、五、一	三、〇、九、二	二、九、三、三	四、二、三、三

2-1326

0042

輸入國別二十年間対照表

三十九年	七、九二四斤	三一、四九九斤
四十年	一〇、四一七	四五、五七五
四十一年	九、五三三	三八、九五八

(4) コーヒー、シガール

輸入國別二十年間対照表

國別	四十一年	四十一年
	数量	價額
英吉利	八、二一九斤	三九、五三七
佛蘭西	一、二九八	二、三三一
荷屬東印度	一、七三三	一、〇八五
日本	一、八五	九、一九
其他諸國	四、〇八	一、〇三
比米合衆國	二、三四	九、三七
其他諸國	四、〇八	一、〇三

輸入國別二十年間対照表

三十九年	四二、三〇九斤	一七〇、三四五
四十年	二八、五三七	一五、一九九
四十一年	二四、七五方	一五〇、四四二

輸入國別二十年間対照表

四十年

四十一年

辛乙

英吉利	数量	三三〇斤	價額	一四九、三七円
佛蘭西	数量	一	價額	二四、七〇八円
其他諸國	数量	三二七	價額	一五〇、二八五円

其他ノ年

輸入三ヶ年間対照表

三十九年	数量	三三二、二〇斤	價額	五八〇、三五八円
四十年	数量	一一一、〇五九	價額	一五三、二〇五
四十一年	数量	一七〇、九六一	價額	一五七、〇五三

輸入國別三ヶ年間対照表

英吉利	数量	三三〇斤	價額	一四九、三七円
佛蘭西	数量	四二一	價額	八八、五八四
其他諸國	数量	三二七	價額	一五〇、二八五
合計	数量	一、三二二	價額	四一八、二九三

2-1326



英吉利
佛蘭西
其他諸國

数量	38	31	37
價額	1495.37	152.2	
数量	247.8	5.8	
價額	150.28	15.7	

輸入三十四年間対照表

三十九年
四十年
四十一年

数量	342.20	580.25	157.53
價額	1105.9	153.2	170.91

其他諸國

英吉利
佛蘭西
其他諸國

数量	493.3	421	387.7	15
價額	885.4	201.0	535.5	88
数量	330.4	381	136.2	44
價額	412.9	123.5	105.4	13

輸入別三十四年間対照表

三十九年

4



旅櫃提囊及佩袋

高工局

2-1 3 2 6

0046

五三三 旗櫃提袋及佩袋

現行税率 改正税率
旗櫃提袋及佩袋 四割 旗櫃提袋及佩袋 四割

税率改正ノ意見

本品ノ輸入既ニ防遏セラレ輸出正ニ盛大ナ
ラントレツ、アルモノニシテ本邦製造材料
ハル牛革羊革ボツク大革馬革鞆革布帛口金
波前金具及ボトル板紙等ニシテ革鞆及金具
ノ使用ハ内外品相半シ布帛ハ殆ント外國品
ニ係リ然レタル内地品ノ使用ハボトル紙
紙ナリ、力如シ而ヒテ輸出ハ清國ノ九割

ヲ如ノ韓國菓糖總額廿六万四千餘リ、其
ニ至リ尙歐洲ノ需用益増加ノ傾向ヲ呈セリ
今輸入税ニト杜絶セラレ輸出又増進セリ本
邦ニ對シ四割ノ保護税ヲ課スルハ一見奇異
尙等ノ意味ヲ爲ヤ、ルカ如キニ實際本品力
輸入ナキ理由ハ製品ニ對スル輸入関税ノ重
キニ比シ本邦ニ出テ製造費ハ低廉ナルヲ以
テ材料品トシテ来リ然レ内地代用材料ヲ
ハ極々低廉ニ製作スルニアリテ撰言セハ
全製品トセテ却介品トシテ輸入スルモノニ
シテ彼ノ内地ニ豊富ナル材料ヲ有シ其材料
ヲ以テ帽子製造ヲ試ムル力故ニ要領帽子ハ
本邦ニ輸入セザル例ト混同セザルヲ要ス若

2-1326

0047

今後製品関税ノ低減ヲ見ンカ材料品ハ輸入
ヲ減シ製品輸入ハ反對ニ増加スヘキハ必然
ノ勢ナリ又較近独逸ニ於ケル擬革布製靴ノ
製造業発達シ極メテ廉且堅牢ナル靴ノ製作
アル場合ニ於テ材料品ノ多分ヲ海外ニ仰
該品ノ如キ豈警戒ヲ要セヌシテ可ナランヤ
尚近キ将来ニ於テ保護ノ必要ヲ認メ税率ヲ
逐ニ

輸出概況

東京大阪ノ主ナル製造地ニシテ生産額約貳
万円ニ達シ口金ノ如キ既ニ東京宮川製品ヲ
以テ精々代用シ得ル程度ニ達シ輸出ハ大阪
七分東京三分ノ比率ニシテ大阪品ハ粗製ナ

ルニ廉價ノ所以ヲ以テ輸出量ニ然レ後來ノ
輸出ハ必ス東京ナルトコトナリ如何ニト
ナレハ靴ハ實用品ニシテ破損容易ナルカ如
キハ其ノ本分ニアラサレハナリ一般ヨリ見
ルニ靴製造業ハ頗ル進歩シ彼ノ米國遊隊未
航時ノ如キ統華(馬華)七八回ヨリ十回程度ノ
モノノ廉價ニシテ製作堅牢ナリト稱讚セラル非
常ナル勢ニテ賣却レ或レ者ハ價格格廉ナルノ
莫ク以テ織中ヲスマイトノ疑問ヲ発セルモ
アリテ各商品中翳モ賣行キ良好ナリシハ靴
ナリシト云フヲ見ルモ後來有望ナルモノナ
ルハモ又彼ノ馬尼刺ノ帰還兵ノ如キ毎月セ
以テ長崎ニ寄港スル定メニテ其際必ス七

ハ同乃至十廿四止リノモノヲ購入スルヲ例
トス而シテ全体ノ輸出ハ順序ヲ以テ増進セ
リ蓋シ本邦輸出品ハ实用ニ適スルモノ
豆ツ粗等ニシテ見ルハ中元ノ少キ現況ニ
リテハ艱ノ如キ実用品ハ後末有望ナル輸出
タルニ望ムルハシ

靴 (事装日布帛裝) 四十年年度輸出額

清國	九六、八七二個	一五八、三七四
韓國	一八、三〇一	三九、〇一一
香港	一、二、九四六	一三、二六〇
印度	八、二六六	一、二六六

海峽植民地	四、一一八	六、八五三
蘭領印度	六、三四〇	五、五九〇
暹羅	一、四一八	三、三三八
英屬	二、七七一	四、七五〇
英領	七、四二二	四、三四二
英領	一、八二二	二、九八九
英領	一、八二二	三、五七九
英領	一、八二二	三、六三二
英領	一、八二二	三、六三二

經水籠及靴

英國
遠國

英領
遠國

2-1 3 2 6

0049



其高徳加米
於 奉
他曜洲院

一四三
七六
一七
五九
一八

四九
三三
一六

了和独佛漢
排齒遠國國

八三
三三
一四
九
一六
七
六

二二
九
七
八
一
九
三
一

其濠加米
新 奉
他洲院

一八
七
二
三
一
四
八
二
四
一
八
三
九
八
二
五
三
三

竹行本及艸

2-1326

0050

南調第三十九号

秘

植物性揮發油国産税率調査

明治四十二年二月

山林局

2-1326

0051

植物性揮發油固定税率調査

一税率ニ對テ改正意見

現行税率ニヨリ桂皮油ハ百斤四十割(從價約三割)「トロ子」油百斤三十割(從價約三割)「バニリン」油及「ブルガモ」油ハ百斤百二十割(從價約三割)其他ノ香油ハ從價三割ナル佛國ニ對スル協定税率(百斤九割三種)ヲ適用シ國定税率ハ清國土耳其等ニ對スル外之ヲ適用セズ松精油ハ十米割ルロニ三付二月四十八割(從價約割五分)ナリ

右各品税率ハ九如ク改正スルヲ適當ト認ム

桂皮油 一付 十三米八厘 (從價約割)

「トロ子」油 五

「バニリン」油及「ブルガモ」油 五

松精油 十米カロロニ付 三円 (従價約二割五分)
 其他 一ヶ 十三米八厘 (従價約一割)

各種植物性揮発油中芳香原料、我國未タ其製造業盛ナラス
 シテ僅カニ八角油、黒文樹油等数種、香油ヲ製造シ得ルニ過キ
 ス而カモ其ノ数量僅少ナルカ上ニ外國ニテ製セラレ、サ香油トハ
 其類ヲ異ニスルヲ以テ假令我國ニ多額ノ産出アリトスルモ單
 ニ以テ免リスルニ到底各種ノ香油、石鹼等ノ配劑トシテ不十
 分ナルヲ免リスルニ元素香油、石鹼等ノ製造ニ二種以上可成多
 數ノ香料ヲ巧ニ配合シテ始メテ新奇ノ芳香ヲ生セラルヲ至眼ト
 スルモノナルヲ以テ今日外國ヨリ輸入セラル、香料ノ固形体ノモ
 始メトシテ香油類數百種ニ及ベリ故ニ可成數ニ輕稅ヲ課シ我國ノ

製造業者ヲシテ安ニテ其産業ニ從事セシムルカラス若シ之ニ
 重稅ヲ課スルトキ其結果トシテ香水、香油、石鹼等然テ製品ノ輸入
 ヲ促カシ遂ニ我國ノ製造家ヲシテ其業ヲ廢セラルニ至ルニ計ニ最近
 三年間本邦製化粧品中香油、化粧石鹼輸出額ヲ見ルニ

品名	香水及香油	化粧石鹼	計
明治三十九年	一五〇、九五〇	七四四、五二四	八九五、四七四
左四十年	一八二、三〇一	六〇七、四一七	七八九、七一八
左四十一年	一八六、七五二	五五四、〇七五	七四〇、八二七

ノ如ク一、年七十万円乃至九十万円ニ達スルヲ以テ之内地消費高ラ加フ
 ルトキ、更ニ莫大ノ數トナルニ從テ之ニ伴フ製造業者モ亦サナカラズサ
 ルヘキヲ以テ前記ノ如ク稅率ヲ一ヶ十三米八厘(従價約一割)トス
 ルヲ適當ト認メ

2-1326

0053

2-1 3 2 6

年次	数量	百斤当平均単價	價額
明治三十七年	二五、一七七	一六、六三	四、一七四
左三十八年	二七、六四八	一三、八九	三、五九二
左三十九年	一一、二一七	一〇、七三	一、二〇五
左四十年	三、四四八	一〇、九四	四、一七〇
左四十二年	一六、九六三	九五、五一	一六、二〇一
明治三十七年	一四、六七五	一〇、七五	一、五七六
左三十八年	二六、九七一	九九、九八	二、九六七
左三十九年	一一、二一七	一〇、七三	一、二〇五
左四十年	三、四四八	一〇、九四	四、一七〇
左四十二年	一六、九六三	九五、五一	一六、二〇一
左四十二年	二四、一四〇	一六、三六	三、八七一

其ニシトロネラ油

年次	数量	百斤当平均単價	價額
明治三十七年	一八、四二四	一五、角一	二、七六二
左三十八年	二七、〇六一	一四、〇四	三、七九九
左三十九年	三一、七六七	一六、二七	五、一七一
左四十年	一一、〇七五	一八、二九	二、〇八六

其一 桂皮油

松精油、我國ニ於テ松根、乾餾液ヲ蒸餾シテ得ルモノ多量ノ産額アリ、今後輸入税率ヲ少ク高メ内国製造業者ヲ保護スル爲メ産額ヲ増加スルノ望ミアルヲ以テ税率ヲ改正シ十米カロニ付三円(後價約二割五分)トスルヲ適當ト認ム

三、参考

(一) 輸入額

年次	数量	百斤当平均単價	價額
明治三十七年	三六三	七〇九九	二九〇円
左三十八年			
左三十九年			
左四十年			
左四十一年			
其他			
其他			

年次	数量	百斤当平均単價	價額
明治三十七年	六〇、五七九	一三、七七	八三、四二二
左四十年	四二、一二七	一三、六七	五七、五八一
左四十一年	十三、七八五	八、六一	九四、九一九
其他			

國別	数量	百斤当平均単價	價額
清國	一一、〇三九	一七、三四	一九、二四四
英吉利	七三三	三三〇、一九	二、四一七
獨逸	三八	三六八、四二	一四〇

年次	数量	百斤当平均単價	價額
明治三十七年			
左三十八年			
左三十九年			
左四十年			
左四十一年			

(二) 輸入概況
 明治四十年中、於此輸入國別尤ノ如シ
 其桂皮油

2-1 3 2 6

0055

国別	数量	百斤当平均単價	價額
計	四二、一七七	一三、六七	五七、五八一
其四 其他			
清国			三八七三円
英領印度			二八六
英領印度			一四五
英吉利			三四九二二
佛国			七、〇八八
獨逸			一七七、六九五
白耳義			一、五二四
伊太利			九、〇四八
瑞西			四、二一一二

国別	数量	百斤当平均単價	價額
計	三、四四八	一三〇、九四	四、一七〇
其三 松精油			
英領海峽殖民地	三一、二四	一三〇、二二	三、七五六
英吉利	三、二四	一三〇、二二	四、一四一
獨逸	三四	一一、四七	三、九
北米合衆国	三八、八〇六	一三、九二	五、四〇〇一

2-1326

0056

澳洲	15
土耳古	34
北米合衆国	46
計	95

桂皮油、清國産ニテ強度モノ一割ニシテ二十六年来並物ニ四未ナリ
 シトヨ子、油、瓜哇、シカ、カ、ル、セ、イ、ロ、シ、等、ヨリ産出椒油ト称シ取引セラ
 ル行ニテ六年来モト十六年来モトアリ、
 松精油、北米合衆国産ニテ松印及虎印ノ二種アリ就中松印最モ
 行ル十米、カ、ル、シ、即チ遠函ニ付十四円内外ナリ以前樽入モノモ輸
 入セラレシガ近年悉ク鐘入ニテ樽入更ニ輸入セラレス千九百七
 年ニ於テ北米合衆国、松精油輸出額ハ千五百八十五万四千六
 百七十六カ、シ、其價額千二十四万八千八百八十三ドルナリ本品ハ松

脂ヲ蒸餾セルモノ大部分ヲ占ムルモ同國ニ又松樹乾餾液ヲ蒸餾
 シテ得タル松精油アリ同國山林局報告ニヨリ、本品、千九百零年ニ放
 ケル産額ハ五十三万四千四百二十七カ、シ、其價額二十三万八千六百十二
 ドルナリ

其他ノ中ニ總ヘテ、植物性芳香油ヲ包含シ中ニ高價モノサカラス
 多クハ獨逸國、シ、ム、シ、社、製、品、ニ、係、リ、同、國、ヨ、リ、輸、入、最、モ、多

内地生産情况

- ①生産額 我國ニ於ケル植物性揮発油ハ松精油、外八角油、薄荷
 油、橙皮油、龍腦油、黑文樹油、菊花油、辛異油、樟腦油、数種
 アリ

其一 松精油



本邦産松精油ニ種アリ松根ノ乾餾液ヲ蒸餾シタルモノ即チ普通ニ松根油ト稱スルモノト松脂ヲ蒸餾シタルモノ即チナリ松根油ノ類西地方ニ多ク産シ其大阪ニ取引セラルモノ一々年ニ凡壹万圓ニ斗入石油罐式個即チ米カロシニ東京ニテ取引セラルモノ一々年ニ凡壹千五百圓ナリ次ニ松脂ヲ蒸餾セル松精油ノ関西ニ於テノ製造セラレ其産額一々年百五十圓至三百圓ニ過キス

其二 各種ノ香油

八角油又和製茴香油ト稱シ静岡縣下藤枝ニテ製ス本邦ノ近年其産額減シ東京ニテ一々年二千斤取引アルニ至全國ニテ約四千斤ニ過キサルトシ本邦外國ニモ輸出セラレ薄荷油年三リテ産額ニ差異アルモノ一々年三十万乃至二十万斤マテトス

橙皮油近年密柑油トテ製造セラル一々年二万斤以上産額ナリ

龍腦油龍腦製造ノ際生スルモノニテ也其産額甚ヤ

黒文樹油一々年二九壹万五千斤ノ産額アリテ其内一万斤ノ外國ニ輸出セラレ

菊苣油東京ニ於テ一々年ニ三十万斤ノ取引アルニ

辛異油東京ニテ一々年ニ五百斤ノ取引アリ関西ニテ一々年ニ九六千斤ノ取引アリ

樟腦油ヨリ再製樟腦ヲ取ル白油及赤油ヲ生ス白油片腦油ハ「カニ」油ト稱シ取引セラルモ香料トナラズ唯々松精油ノ代用ヲナスノミ赤油外國ニ輸出セラレ外國ニテハ之ヨリ「サフロール」「ヘリョトピ」等ヲ製ス「カニ」油ニ由テ樟腦專賣局ニテ作ラレタルコトアリシガ今悉ク獨逸國ヨリ輸入セラル

(四) 生産情况

松根油、関西特ニ丹波丹後、但馬、出雲、阿波、紀伊、河内、大和等ヲ最盛ナリトシ、其産額年々増加ス又、関東ニハ駿河、伊豆、千葉、其他各地ニ産スルモ、関西ニ比シテ遙カニ少ク、其名、如ク松根ヲ乾餾スルモノ、大部分ヨクタルヲ以テ、其製造地ニ定セズ、松根ノ所在ヲ逐テ轉々スルヲ常トス、即山間ニテ、乾餾液ヲ採收シ之ヲ一定場所ニ集メ、蒸餾ヲ行ヒ以テ松根油ヲ餾出スルモノニテ、何モ農家ノ副業ニ係レリ、轉々其製造法頗ル進歩セルモノ、如キモ規模極メテ小ニシテ一人ノ生産額僅ナルヲ以テ、多量ノ需要者ニ対シテ、品質ヲ一定スルヲ得サルヲ欠点トス。

松脂ヲ蒸餾スル製造法、備後國三吉ニ於テ之ヲ行モヤリ、其産額前述ノ如ク甚クシキ製造法、松脂ノ産額ト相俟ツキモノナルニ、我國ノ

松樹ノ脂量ナク且ツ林業經營上粗放採脂ヲナスヲ得サルヲ以テ該法ニ到底十分ノ發達ヲナスヲ得サルハシ

各種香油、何モ其産額ナ量ナルモ獨リ薄荷油、我國特有ノ産物ニテ、東北地方及北海道ニ産シ、其産額モ稍々多ク且ツ外國ニ輸出セラルルモノ、樹油ノ類、西ニ在リテ、紀伊、丹波等ニ之ヲ産シ、南東ニ在テ、駿河、伊豆、遠江ニ産スルモ、轉々今野州、越後、羽前、羽後、陸中ノ方面ニ良品ヲ産スルニ至レリ、本品、獨逸、フランス、及英國、倫敦ニ輸出セラルルモノ、フランス、ベルギー、オランダ、三國ニ至リテ、トイフ、樟皮油、紀州ニ産シ、菊花油、薩摩ニ産シ、辛異油、越前ニ産ス、何モ農家ノ副業ニシテ、規模モナリ多ク、東京、大阪、又、南港場ニ於テ、香料トシテ、引合ノ上製ニ造スルモノ、如シ、樟腦油、之ヨリ、兩製、樟腦ヲ取リ、白油、赤油、トシテ、分テ、白油、内地ニシテ

赤油、外国ニ輸出シテ之ヲ棄却ス
（将来、見込原料供給）

松根油ノ産額、將來増加シ得ヘキヤ否ハ茲ニ数字ヲ以テ明言スルヲ得ス
ト雖モ、全國ニ於ケル樹木採採ノ年々多量ニ上リ其幾分、地勢關係
係上根株ノ採掘ヲナスハカラサルモ、其他ノ悉ク採掘シ得ルモノトセ
今日ノ産額ヲ尚一層増加スルノ敢テ至難ニアラサルニ之及ビテ、我國ノ
松樹ノ脂量甚ク且森林經營上粗放ニ採脂ヲナスヲ得サルヲ以テ
松脂ヨリ蒸餾スル松精油製造、到底發達スル時ナカル
各種香油中、八角油、黒文樹油、辛夷油、其原料ヲ林産物ヨリ取ル即チ
八角油、槐実ヲ可トスルモ、又枝芽ヨリモ取ル也、年餘ノ行ハサルヲ以テ將
来ヲ豫想シ難シ、黒文樹油、烏樟木ニ年生位ノ細幹ヲ刻ミテ蒸餾
餾スルモノトシ、其原料ニ之ニカラス、其製法由モ純粋ナルモ、佳香ヲ

有シ香料界ニ賞用セラル本品、外國ニモ輸出シラレ、將來有望ニ芳
香油ヲリ然レモ製造者、他ノ類似セル樹木ヲ混ニテ蒸餾シ、又ハ松
精油ヲ混スル等、不正手段ヲ行フテ、從來熱度カ輸出ヲ杜絶シタル
コトアリ、横濱市尾上町長岡清助、二十年來本品ノ輸出ヲ營ミ
来リ、其商標、外國ニ信用ヲ博セリトイフ
薄荷油、原料農産物ナリ、其供給ニ伸縮自由ナリ、橙皮油、如
キ原料ニ稍々制限アルヘク、菊花油、如キ原料種々テキヲ以テ將
来有望ニモニアサルコト
樟腦油、原料出セル、各種ノ香料、我國ニ於ケル化學工業進歩
未タ之ヲ經濟的ニ製造スルニ至ラス、獨逸國ニ赤油ノマ、輸出セラ
レ、精製品トナリテ、因ニ我國ニ輸入セラル、サフロール、如キ、ヘリコロピン
如キ是ナリ、然レモ原料豊富ナルヲ以テ、將來ニ之ヲ我國ニテ製造

2-1 3 2 6



セサル可ラス

(c) 生産費之ヲ詳サシムルヲ得サルモ左ニ目下ノ市價ヲ掲ゲン松根ヨリ採リタル松精油壹匁七円乃至十三円ニテ品質ノ良否ニ着目ノ有無即チ蒸餾度數ニシテ

松脂ヨリ採リタル松精油、壹匁十八円ニテ輸入品ニカラストイフ

八角油 壹匁 一円三十五匁

薄荷油 壹匁 三円三十匁

橙皮油 壹匁 一円五匁乃至一円三十匁

墨文樹油 壹匁 七十五匁乃至一円三十匁

菊花油 壹匁 九匁

辛鼻油 壹匁 一円三十匁乃至一円七十匁

(四) 内地消費情况

松精油、其松根ヨリ製セルモノト松脂ヨリ製セルモノトノ別ハス假使及可
イニトニ用ヒラルモノ多量ヲ白メ全消費額、約七割ニ至ルニ其
香水、藥品ニ用シレ又醫藥品ニ用テ洗滌用トス
近年ニ至リ内国製松精油、産額増加ニタル爲メ一般ノ需要ニ連テ
増大セルモ外国品ノ輸入、在マテ増加セルヲ見ス而シテ輸入品ノ品質
一是セルヲ以テ鉄匠院其他多大ノ弊害ナル所ニ於テ之ヲ用ヒ内国
品ノ品質一是セルヲ以テ個人ノ消費者ヲ顧客トセリ
外国ヨリ輸入セルナル香油類中桂皮油、シトロネ油、ラザエンテル油
バルカモット油、如キ、何レモ使用額且取モ多ク石鹸、香水、香油其他
ニ用ヒラル其他東京香料商、手ニ取引セルモノ九ニ百種アリテ且
モ高價ナルモノ一匁乃至四十匁内外最モ低價ノモノ一匁乃至四十
匁内外ナリ石鹸、香水、香油、歯磨、草、製、造、家、苦、心、ス、ル、所、リ、可、味、廉

價尤各種香料ヲ混用シテ巧ニニ種ノ佳香ヲ作り今テ其原料何
 タルカヲ判知スルヲ得ザラシムルニアリトイフ
 (五) 當業者ノ希望
 松精油ノ関稅ハ米カレロニ付二百四十八分即チ從價ノ約一割五分ニテ
 他品ニ對シ寧ロ輕稅ナルヲ以テ稅率改正ニ對シ別ニ何等ノ希望アルヲ
 聞カス
 香油類ニ總テ協定稅率一十九分ニ定ムルモ尙ホ其上免稅トセラレシ
 ヲトテ欲シ若シ免稅スルヲ得ストモ關稅改正ノ其國定稅率ハ現
 在ノ協定稅率ヲ超過セザラシトテ希望セリ

2-1 3 2 6

0052

5

秘

陸軍省
衛生部
衛生局

植物性揮發油関統調査

商工局

2-1326

0063

植物性揮發油

現行率

油脂及蠟類
植物性揮發油

四松精油	百斤 四〇〇・三割	一 〇・九三割
甲 樟入又ハ十未ガロシ	三三・三〇	〇・九三割
乙 其他	二四・八	〇・九三割
五 其他	三割	〇・九三割
六 其他	三割	〇・九三割

改正税率

油脂及蠟類

一 松精油	甲 樟入又ハ 一割五分(當量課税)
乙 其他	二割
二 芳香性植物揮發油	無税
三 其他	二割

税目変更ノ理由

柱皮油以下ノ芳香性植物揮發油トナシタル所以ハ我國ニ生産セラル、モノニ非ル、ミナシ又香水其他化粧品ノ原料ニ用ヒラル、モノニシテ無税ヲ希望スルモノナルヲ故ニ一括シテ芳香性植物揮發油トナシタルナリ而シテ芳香性ニアラスル植物揮發油ハ芳香性ノ揮發油ト性質用途ヲ異ニスルヲ以テ之ヲ分商ニ更ニ松精油ハ特ニ重要ナルヲ以テ特記ニ相當ノ後量税ヲ課徴セシコトヲ希望スレハナリ

税率変更ノ理由

一 芳香性植物揮發油ハ主トシテ香水等化粧品ノ原料ナリ故ニ此等原料ニ輸入税ヲ課シ以テ其價ヲ騰貴セシムル時ハ我國香水其他ノ化粧品業ハ到底外國

品ト競争スルコト能ハサルナリ特ニ我國ニテハ酒
 精ノ課税ハ甚ク重クシテ該業ノ發達ヲ害スルナリ
 サレハ我現行定率法ニハ協定税率ノ規定ナキニ拘
 ラス當業者ノ運動ニヨリ強ク薰香類ニ包含スルモ
 ノナリト解シ其協定税率一昨〇〇九二月ヲ課ス香
 水其他化粧品ノ輸入ハ之ヲ防止スルコト能ハスト
 セハ須ク其原料ノ輸入ヲ容易ニシテ以テ其製造品
 ノ輸入ノ大部分ヲ防遏スルヲ可トス而カモ芳香性
 揮発油ハ前ニ陳タル如ク我國ニ生産モラレサルヲ
 以テ之ヲ輸入税ヲ免除スルモ我國ノ生産者ヲ害ス
 ルコトアラサルナリ
 ニ松精油ハ芳香性ニアラサル植物揮発油ノ一ニシテ
 ヲニキノ乾燥ヲ迅速ナラシムルハ又ハ土瀝青及ビ

ヲシニ波和ニ鉄線ノ入ル等可銀等ニ塗布スルヲ其用
 途トナス其輸入額ハ別表ニ示ス如ク四十年年度ニ
 於テ五万四千円ナリ我國ノ産額ハ統計ノ徴スルハ
 モノナキヲ以テ之ヲ知ルコト能ハスト雖モ其額蓋
 シ少クナル可シ我國ニテハ松精油ハ主ニ松樹ノ根
 ヲリ之ヲ採ルモノナレハ其材料ノ價値ヲ憂フルモ
 ノニ非ス若シ外國ヨリ輸入ヲ防遏スルヲ得ハ副業
 トシテ利益アルモノナルヘシト虽モ之ヲ精製シテ
 市場ニ出スマテニハ運賃其他ノ費用高ミテ外國品
 ト競争スルコト容易ナラスサレハ我國ニテモ總房
 豆駿等比較的東京ニ近キ地方ハ又ハ紀州ノ如キ火
 阪ヲ去ルコト比較的近キ地方ニ之ヲ製造ヲ見ルナ
 リ精製シタルモノニツキテモ之ヲ使用スルモノハ

2-1326

0055

尚外國輸入品ニ比シ遜劣アルヲイフ。果シテ然ラハ
 我國精油ヲ發達シテ外國輸入品ヲ駆逐セシムル
 コトハ到底今後十数年ノヨクスル所ニアラサルナ
 リ。然ラハ又對シ其税率ヲ輕減シテ之ヲ原料トスル
 工業ヲ興スヲ得策トスルカトイフニ前ニ陳タル如
 ク現今既ニ諸國ニ於テ之ヲ生産スルモノアリ。交通
 機關ノ發達ニ伴ヒ益々發達スヘキモノナルカ故ニ
 做ニ之ヲ原料トスル工業ノ利益ヲ名トシテ之ヲ輕
 減ス可ラサルモノ、如此。是レ現行税率ヲ維持セシ
 ヲントスル所以ナリ

三現行定率法ニハ其他ノ植物性揮發油ニハ三割ノ後
 價稅ヲ課スト呈シ芳香性ナラサル揮發油ニ對シテ
 之ヲ適用スルハ不適當ナルヲ以テ油脂蠟等、一般

輸入概況

本邦ニ於テ薄荷油、黒文字油ヲ除キ他ノ產出ナキヲ以
 テ輸入逐年増加ス輸入國ノ主ナルハ獨逸ニシテ次ヲ
 英佛伊太利ノ順存ナリ。獨逸品ノ賣行良好ナルハ香氣
 深濃ニアリテ英仏國品ノ長所ハ優雅ナル芳香ニアリ
 當時需要アルモノ、五ツセンシヤル油ニアリテムシバ
 ニカシ油ノ三分シトロネヲ油ノ二分下子油、二分ニ
 シテ他ノ三分ハ主ニバルカモツト油カヤフイリ油
 ガラニエムシ油シモン油ノ各ムルトコロトス又アル
 トエツセンシムンインアップルアワプルハナヒ
 少量ヲ輸入ス而亦亦數用混合芳香油ニアリテハ麝

2-1326

0055

香田分ヲ右ノウインドソルロース及ガアロレツト之
 二次々迄未人造麝香ノ輸入税ノ高キニ依リ此根
 末其他ノ植物性芳香材ヲ混シタルモノヲ輸入シ税関
 ニ於ケル人造麝香税ヲ脱スル手段ヲ熾ニ講シリ
 税関ニ於テハ税目ノ解釋上如何トモ為シ難シト云
 フ後未如新キ重税品ニ対シテハ充分防止ノ方法ヲ豫
 ノ定メテキタシト當事者ノ企望ス試ニ人造麝香及他
 ノ香料ヲ混シタル人造麝香ノ市價及関税ヲ掲ク
 左ノ如シ

一 純粹人造麝香 一 封度 價八円 税金十六円五十銭

合計廿四円五十銭

一 不純粹人造麝香 一 封度 價拾円

松精油

輸入ハ主ニ英米ニ據テ行ハレ當時名アルモノ松印
 ニシテアフリカントレジンゴ商會サミユール商
 會及スタングリド商會ノ輸入ヲ多シトス十九倫下
 等十四円上等品十七円内外ナリ本邦ニ於テハ房總
 豆敷其他各地ニ於テ少規模ナカテ産出アリテ若シ
 帯黄色ナル欠点ヲ除去セハ敢テ外國品ニ讓ラサル
 程度ニ進歩セリト云フ當時ノ市價上等米十九倫
 付十六円下等品十円臺ニア

植物性揮發油輸入國別表 四十年

清	桂皮油	二〇一。四	他
國	二〇一。四	三〇八。三	

2-1326

0057

英領印度	英領東印度	蘭領印度	英吉利	佛蘭西	獨逸	白耳義	仔太利	瑞西	埃白國	土耳古	米國	其他
三、一、二、四、六、八、一〇	三、七、五、六、四	三、二、四、四	三、四、七、三、二、六	一、四、三、八、九	三、九、四、一、七、六、六、九、五	一、五、二、四	九、〇、四、八	四、二、一、二	一、五	三、六、四	四、八、六	

總輸入額
二、三、〇、八、七、五
三、一、四、四、八
五、四、二、一、三、七
二、三、九、六、五、八

植物性揮発油輸入累年表

桂皮油	松精油
四十年 一、二、〇、七、五	四十年 四、三、一、二、七
三十九年 三、一、七、六、七	三十九年
三十八年 三、七、〇、六、一	三十八年
三十七年 三、七、九、九、六	三十七年
日本産油	日本産油
四十年 二、二、〇、八、六	四十年 五、七、五、八、一
三十九年 三、一、七、一、〇	三十九年
三十八年 一、四、〇、四	三十八年
日本産油	日本産油
四十年 一、八、二、八	四十年 一、三、五、一
三十九年 一、六、二、七	三十九年
三十八年 一、四、〇、四	三十八年
日本産油	日本産油
四十年 四、一、七、〇	四十年
三十九年 	三十九年
三十八年 	三十八年
日本産油	日本産油
四十年 二、二、〇、九	四十年
三十九年 	三十九年
三十八年 	三十八年
日本産油	日本産油

2-1326

0068

三十八年	三十九年	四十年	其他	三十八年	三十九年
				六〇、五七九	八三、四二二
				二七、六四八	三九、六二八
					一、三七八
					一、三八八
					一、三七八
					一、三八八

二、三九、六五八

2-1326

0059

秘

華布、林用油布及リノリウム
関税調査

関調書

簿

商工局

2-1326

0070

現行 革布 税率 改正 税率
 革布 每平方ヤード 一〇七。五 每平方ヤード 四八
 林用油布 及リリウム 每坪 一。五 全上 全 二〇七。〇
 35% / 30%

革布 較近本邦ニ於テ革布製造業勃興
 今ヤ漆革代用革布ヲ味ク外ハ輸入品殆
 ト杜絶シ悉ク内地生産品ヲ以テ需用ヲ充
 居リ尚ホ進シテ東洋市場ニ輸出スヘキ趨勢ヲ
 示シ来リ斯業ニ対スル保護ハ最早ヤ其モ恐
 メサルヲ以テ本品ノ関税率ハ概置置ヲ希
 林用油布 本品ノ需用ハ逐年増加シ来ルモ

輸入数量ニ於テ毫モ増進セサルハ下等品ノ次第
 ニ本邦ニ於テ製出セラルルニ至リシヲ以テナリ中
 等品以上ノ今尚ホ輸入セラルルハ我生産品ノ
 不廉ナル矣係ニアラスレテ技術未タ到ラサル故
 ナリ技術ノ練習ト共ニ現行税率ノ下ニ將來本
 品ノ生産ヲ見ルコト明カナハ現行税率ノ下ニ
 置キテ希シラス
 リノリウム 本品ハ未タ内地ニ於テ生産ヲ見
 ルモ必スヤ需用ノ増加ト共ニ之レ方製出ヲ見
 ニ至ル可ク生産費ノ如キハ全ク不明ニ属スルモ其
 ノ類似品ヨリ推セハ現行税率ノ下ニ將來輸
 入防遏ハ難事ニアラス因ツテ本品ノ課税ハ現

2-1326



存税率 捲置 キヲ希 殆マス

林用由布	三三六	二六三	三三三	二七三	五七五	一三三
数量	三三六	二六三	三三三	二七三	五七五	一三三
價額	三三六	二六三	三三三	二七三	五七五	一三三
輸	四十一	年	四	十	年	三十九
入	年	四	十	年	三十九	年

革	五〇三	四二九	五〇三	四二九	五〇三	四二九
布	五〇三	四二九	五〇三	四二九	五〇三	四二九
数量	五〇三	四二九	五〇三	四二九	五〇三	四二九
價額	五〇三	四二九	五〇三	四二九	五〇三	四二九
輸	四十一	年	四	十	年	三十九
入	年	四	十	年	三十九	年

革布 二

2-1 3 2 6

0072

5

関詢才

号

香水香油洗歯薬及其他各種
脂粉 薰香 類 関税 関詢

秘

商工局

2-1326

0073

香水香油洗滌藥及其他各種ノ脂粉薰香類

現行税率	協定税率	改正税率	率
推美 香水香油洗滌藥 及其他各種 脂粉薰香類	液体ノモノ 固形ノモノ 其他	一割 一割 一割	一割 一割 一割

税目ノ改正理由

製品原料ノ大部分ハ植物性油ナルヲ以テ油脂類及同製品類ニ移シ前分類ヨリ洗滌及白粉ヲ除ケリ又大蔵省調査平均價格表ニヨレハ液体及固形ノモノ及クリム等ノ如キ固形ノ價格ニ大差アルヲ以テ二種ニ大分ス

平均價格表

香水及香油	百斤
香水及香油	一四九、四五六

税率改正の意見

香水及香油類ノ輸入四十一年ニ於テ五十八万四千ニ上リ輸出ハ依然十八万四千ヲ算ス而テ輸出ハ純然タル輸出業者ト自認スモノ大段ニ於テ單一名志ハ慘ク性タル状態ニシテ更ニ内地品製造業者ニシテモ稍ヤ其ノ名アルモノ東亞ニ於テ二名ヲ数フルニ過キス他ハ橋廂ノ傾ケル裏屋ニ漸ク少量ノ製造ヲ試ミソアルモノニシテ振ハサルト又甚クシテ階フヘキナリ其ノ非徴官氣

ナキ理由ヲ見ルニ一輸入香水、終年十ル協定
 率ニ依ル為カ地製香水ノ阻害セラルコト
 二主ナル原料酒精力輸入税又ハ造石税ノ為
 遠ル其價ナルコト三内國産酒精原料ノ為カ
 臭氣アリ香料ニ適セザルニトテ香水
 ニ対スル輸入税ハ日併協定ニヨリ一ル九三
 至一割ニシテ本邦香水製造ニ要スル原料
 タルヘキ香料ハ均シク合率ヲ課セラレ更ニ
 主要ナル原料、酒精ハ内地ニ於テハ高率トシ
 造石税ヲ又輸入ニ於テ一リ一トル七十三錢ニ
 五割以上ノ重税ヲ負ヒ原料ハ別名ニ對シ
 比年高キ課税ヲ見ル現況ニシテ原料ノ供

産ハ製成ニ要スル勸興及香連ニ大干便アハ各
 理ニ及スルコト見ルニ見ルニナキ事業ニシテ
 本邦ノ利不益カ到ラズ現況ニ於テ不可成ノ事
 ト對言スル所人々多ク驚愕セザルニシテ而テ
 補フノ手取トシテ輸入税又ハ輸入税ノ以テ酒
 精ニ對シテ輸入香水ニ對シテ課税ノ恩惠ヲ附与セ
 ラルモ在左ノ輸入税ノハ内地産酒精ノ限ラ
 ルモテシテ何等輸入酒精ニ及ホザルコト本
 邦ニシテ是レ本邦酒精トシテ臭氣ヲ存シ我
 國製造程及ニ於テ救救ク到ラズ中等品以上ノ
 製造品ニ使用スル能ハザルヲ以テナリ之ヲ補助
 徴スルノ度税ノ干渉上由地産酒精ヲ使用シ

多自費ノ多ク加ク臭気ヲ所ノ地臭物類
送行ノ路果其ノ弊名ハ粗悪ニシテ商賈
シヨクノ貿易者トテ振テ杜ムニテリ夫レ斯
ノ如ク重要ノ材料ハ精ノ干係上由由共
ニ重税ノ課セラレ内也品ハ三伏夜下ル臭気
ノ多ク下等名ノ使用止マリ而ソ市價ハ白毛
ニ於テ一斗交七斗以下ノモノ本邦ニ於テ六十
斗乃至八十斗ノ價格ハ既レ其ノ差額ニ於テ
対抗困難ナルニカハ輸大キルノ臭氣僅カシ
一割程多カキ可キ事ニ對スル不利勿ク又
確實ト云ハルモ本年是レ協定税率ノ撤廢
モトスレハ難ク排シテ中ニシテ中又シテ
途地等キニテ多ク故シテ對スル輸大防過手取

香

及物出方度策ハ輸不税率半ヲ高メ其香
性揮散速クキキ至材料ヲ減減スルニテ
本邦ニ對スル税率ハ釐率是ナラシテ異議
ナカレバ又原料ニ對シ減税ヲ行フモ何等ノ
煩シナカレバ其者許多キ租帶ニ接近セ本
邦トシテ其ノ物出ニ又メミテ其業ニ對シ係
之度アハル事也ノ要否ニシテ六割ヲ概スル是
又不安也ナラシムヘシト信ス

輸入概況

一香水 本島ハ昔年二千餘多キヲ以テ例年四
月ヨリ七月ヲ以テ販賣期トセラル去歲不景氣

2-1326

0075

ノ新造ヲ交ケ其製法亦多ク一可クテ以テ本年
 ノ仕大平花ハ後ト様大ニモ善通船大五一打
 四内乃至五内ノモノ多キヲ点ムルモ其打
 四五内ノモノ多クトセス其付名アルモノ上
 ハ老ノ如シ

社 込 ガスターボツ(公)社 通称 水鏡平
 五番平
 佛蘭西 コイヤハレト社 キントん平
 ホフジヨイス社 早ヤンハレト

「コスメツク及クリム ヲコスメツクハ香水ト
 相及シ其ノ多賣高ハ主ク先期トス之ハ勝防ノ
 深解アルコト出ス夏期ニ於テハクリム之

ニ代ルコスメツクハ多ク其位ト一打二打七十
 其内分送ミシテ主ク佛蘭西ノ輸入ニ係ル者時
 予揚ニ出スルモノ老ノ如シ
 一コスメツク

佛蘭西 ガラシリス社 通称 英筒ツク
 マジヤール社 五三番野ツク
 一クリム
 佛蘭西 シモン社 シモンクリム

輸出概況
 輸出額々連シ甚ク低セズ現今市場ノ相場野
 交好ハ五ハ十美ニ至リ六十美(内外均均シ)
 ニシテ本邦製下等品ハ四十二美ノモノアルモ

氣味は強く使用は増へる者の検査定規は年々
リ一新後より然るにセシルにテモ稀なるナ
ルモノは原料の同様に之より更にハシテは賣又
ルノ者分米ヨリ薄シクアリ極細業支トシテ有
名ナルハ大段被々村ノ東ノ部極細製ニヨリ
ヲ出スルニ至ラズ情不ノ貿易ハ其粗製ニヨリ
更ニ擴張ノ又ハ此在に於テノ勞米ナキカセ
ク又對清貿易ハ前年交々比し減進セリ而テ
其ノ生産額ハ大政府三十七年調査ニヨリハ香水
香由ヲ食シ世一万余千四百廿四ニシテ東亞ニ
於テハ生産額ハ完全ナル後升十ノ不能ナシ
モ其業支ノ又ハハ十五ノ四ヲ上ルガハニト

香水

新入品に對スル内地製造品ノ比較

其ノ商標ニ於テ仙臺西ガスホーヘニ社製造
水ト同質ナルモノノ製造容易ナリトシ莫者
モシ最廉人ニ於テ路色ナキ天價格多引左ノ
多ク是レ停止セリト云フ而テ其ノ検査亦ヲ
肩クニ在ルニシ

造製地内	香水一打
口金	一五〇
口金	一三〇
口金	一〇〇
口金	〇〇
口金	〇〇
口金	〇〇
口金	〇〇
口金	〇〇

合計一四五

2-1326

0078

費
香酒賤

差引
巻用
差
料精紙

一〇〇
〇六〇
〇〇六

手
方

2-1326

0079

年	香木	香油	及	薑	香	類	物	六	國	の	表	年
三十八年	三	一	〇	二	一	七	四					
三十九年	一	三	八	〇	五	三	六					
四十年	四	〇	九	一	七	六						
其他諸國	二	七	四	六	七							
總額	五	八	三	〇	三	一						
香木	七	八	七	〇	三	一						

三十八年
三十九年
四十年

三十八年
三十九年
四十年

2-1326



5

秘

關稅簿 号

蠟燭關稅調查

商工局

2-1326

0001

蠟燭

現行税率 改正税率

協定税率 每百斤 二四六
 協定税率 每百斤 二四六
 國定税率 每百斤 七五七〇
 國定税率 每百斤 七五七〇

本五十年前以前ハ毎歲輸入額三萬圓内外ナリシモノ今
 三萬圓内外ニ減退シ清韓地方ニ向テ千餘萬圓輸出ヲ見ル
 至レリ是レ當業者技術ニ練習ヲ重クシ結果現今原料
 可輸入日本邦邦製造スルニ至レリ以テナリ然レモ現時尙ホ三
 萬圓内外ノ輸入品ハ何レモ優等蠟燭ノミニシテ本邦邦製
 此等優等蠟燭製造ニ付テハ技術ニ於テハ強クト遺憾ナキ

域ニ運セルモノ凡テ原料ヲ輸入シ製造スルモノナレハ關稅(百斤)
 付(四兩六匁)シ差ノミヲ以テ彼ノ對抗スルヲ得ス少ナク
 毛定以上ノ保護ヲスニアラサレハ現行輸入蠟燭ヲ防クヲ得
 ス而シテ國定稅(百斤)付(七兩七匁)或(明治軍年度平均
 相場百斤)付(貳兩七匁六分)ヲ標準トス(三割稅)相
 課稅ナレハ此際協定稅率ヲ解キ每百斤(付七兩七匁)ノ
 從量稅ヲ課セラントヲ希望ス

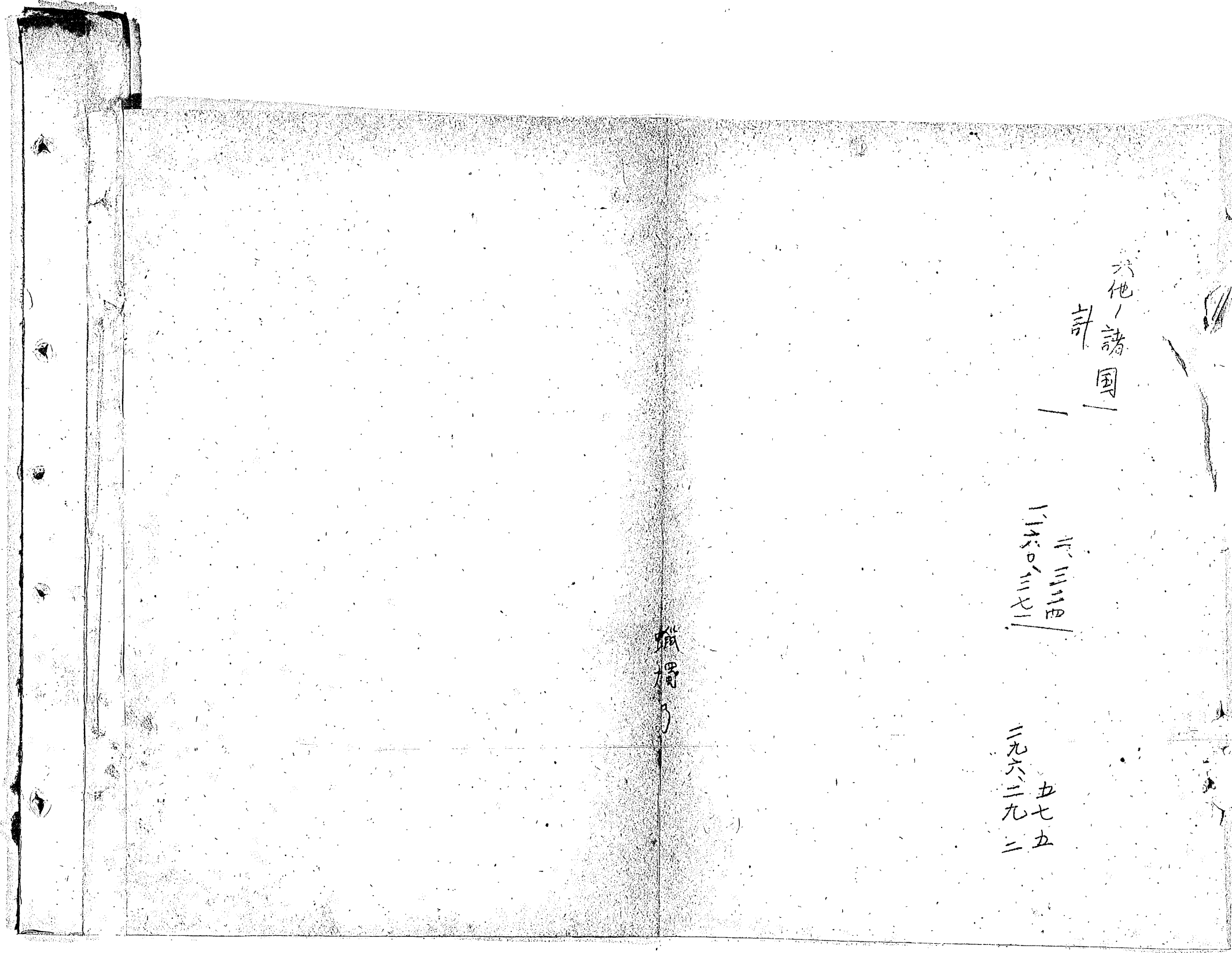
蠟燭	四十年	三十九年
數量	八三四四	三三三六
價額	二二七四	三三三六
數量	四一〇	三三三六
價額	五八二	三三三六
數量	二七五	三三三六
價額	五八二	三三三六



蠟燭									
蠟燭輸出別					蠟燭輸入別				
國名	數量	價額	國名	數量	價額	國名	數量	價額	國名
國	六〇、九七九	一五〇、三五〇	清	三三三	七二四	清	三三三	九四六	英領印
東	三四、三四六	八三、〇六六	佛	一〇三	三二〇	英領印	六三	四九〇	蘭領印
州	二二、四六六	五九、五三七	獨	一〇	二二	佛	一〇	六一〇	蘭領印
香	一一、〇〇〇	二八	耳	一〇	二二	義	一〇	一七五	和
露	三、〇〇〇	七五二	哇	一〇	三三	哇	一〇	一八四	和
北	一、八五〇	一九五	計	八、四三七	三、七八四	和	一〇	二七〇	和
英	一、一五〇	三三〇	計	八、四三七	三、七八四	和	一〇	二七〇	和
布	六、〇四四	一四九	計	八、四三七	三、七八四	和	一〇	二七〇	和

2-1326

0003



六他ノ諸國

三三三三
三三三三
三三三三

二九六二九
二九六二九
二九六二九

城

2-1326

0084

九

原油
一、輸入数量及國別

年次	数量		價格	
	噸	價	噸	價
四十一年	28,546,629	6,623,944	28,546,629	6,623,944
四十年	26,222,222	6,222,222	26,222,222	6,222,222

原油ハ四十一年中初ノテ輸入セラレタルモノ
ニシテ今之ノ内國ニ於ケル原油産出額ト對
比スレバ次ノ如シ

年次	内國産出額	輸入額
四十一年	1,629,327	24,917,302
四十年	1,523,694	24,917,302

二、輸入原油ノ價格

今在米領事ノ報告等ニ基キ米合衆國ガリ
ホルニ州産原油ノ價格ヲ算出スレバ一石
ニ付十一円四十八錢ヨリ一円七十二錢ナリ
左ニ新潟縣下ニ於ケル原油ノ價格ヲ掲ケ考
考ニ供ス、シ

年次	東山油田(一石)	新津油田(一石)
四十一年	6.18	2.98
四十年	6.33	2.35
三十九年	4.73	1.41

三、運賃諸掛及保險料

東洋汽船會社ニテ聞ク所ニ依レハ幕港ヨリ
横濱迄ノ運賃諸掛左ノ如シ
運賃 一噸ニ付 三円乃至四円

2-1326

0005

保除料 百四二付 一四二五錢
積込費 一噸二付 十錢
荷揚費 全 三十錢

今右ニ依リ原油一石ニ要スル諸費ヲ算出ス
レハ運賃四十七錢三厘乃至六十三錢保除料
一錢九厘及積込費荷揚費六錢三厘ニシテ合
計五十五錢五厘ヨリ七十一錢二厘ヲ要ス
四 輸送方法

寶田石油株式會社ニ於テ輸入スルモノハ東
洋汽船會社ト特約ヲ為シ同會社ノ汽船ヲ以
テ輸入者
五 輸送ス

現今原油ヲ輸入スル者ハ寶田石油株式會社

及ヒライジングサン石油會社ニシテ寶田石
油株式會社ハ程ヶ谷町ニ製油廠ヲ設ケテ專
ラ輸入原油ヲ精製ヤリ而シテ全會社ニ於テ
輸入スル原油ハ四十年四十二年ニ於テハガ
リホルニシ州産ナリシモ四十二年末ニ於テ
テキサス産并ニ秘露國産原油ヲ輸入シ其後
四十二年ニ入リテハ主トシテ秘露國産ヲ輸
入スト云フ
ライジングサン石油會社ニテハ未タ製油ニ
着手セスト雖氏本年ニ至リ「スマ」トラ産原油
ヲ輸入シタリ
六 輸入原油ヨリ精製スル品種
寶田石油株式會社ニ於テ輸入原油ヨリ精製

七ルエノハ揮發油燈油重油及瀝青ニシテ揮
 發油及燈油ハ國油共同販賣所ノ手ニ依リテ
 販賣セラレ重油ハ主トシテ東洋汽船會社ノ
 汽船用燃料ニ供給シ瀝青ハ中外「アスファルト」
 株式會社ニ販賣セリ
 輸入原油ヨリ精製シタル燈油ニ二種アリ一
 ヲ青光線印ト稱シ他ヲ黒光線印ト稱ス左ニ
 買價格ヲ掲クベシ
 青光線印 一函ニ付 三四五十六錢
 黒光線印 一函ニ付 三四四十一錢
 青光線印石油ハ大岩「ア」ノ石油ト同質ニシ
 テ會社精製品中ノ最良ナルモノナリ又黒
 光線印石油ハ會社カ内地石油ヨリ精製シ

タル室田印石油ニ類スルト云フ

2-1 3 2 6



九
五

石油
一、輸入数量及價額

年次	輸入		再輸出	
	数量 (千バレル)	價額 (千円)	数量 (千バレル)	價額 (千円)
四十一年	七〇、一六五、六二六	一四、三二四、八〇〇	三三、三六八	九、八〇九
三十九年	五九、四二九、〇〇八	一二、三二六、八九二	三一、八九三	一〇、五一七
三十八年	五八、七〇三、三〇九	一二、〇六一、二六一	三九、四九六	一二、三六五
三十七年	八二、六七一、八〇一	一八、二〇一、四九〇	四三、五〇〇	一四、四三三
三十六年	五九、七八〇、二〇六	一二、四五五、六九七	二四、三〇七	五六、三一
三十五年	七五、四八〇、一五四	一四、九三七、一七〇	六二、五八五	九六、八八四
三十四年	六八、九九六、三九二	一四、九四三、四〇二	一五、八七四	四四、三〇〇
三十三年	六七、八四二、三二四	一四、一六二、六五二	二一、三七七	六〇、八三八
三十二年	五二、四二一、八三七	七、九一八、一四九	一三、四八六	三三、五二七
三十一年	六七、九〇、五四五	七、五五二、八七九	三四、九七五	七六、六四三

二、國別輸入数量及價額

年次	種別	四十一年		三十九年		三十八年		三十七年	
		数量 (千バレル)	價額 (千円)	数量 (千バレル)	價額 (千円)	数量 (千バレル)	價額 (千円)	数量 (千バレル)	價額 (千円)
四十一年	北米各埠	四四、九六六、九三三	一四、三二四、八〇〇	三三、四三三	九、八〇九	三三、四三三	九、八〇九	三三、四三三	九、八〇九
	露領亞細亞	三三、四三三	九、八〇九	三三、四三三	九、八〇九	三三、四三三	九、八〇九	三三、四三三	九、八〇九
三十九年	計	一〇、一三三	三、〇〇〇	一〇、一三三	三、〇〇〇	一〇、一三三	三、〇〇〇	一〇、一三三	三、〇〇〇
	其他	一〇、一三三	三、〇〇〇	一〇、一三三	三、〇〇〇	一〇、一三三	三、〇〇〇	一〇、一三三	三、〇〇〇
三十八年	計	一〇、一三三	三、〇〇〇	一〇、一三三	三、〇〇〇	一〇、一三三	三、〇〇〇	一〇、一三三	三、〇〇〇
	其他	一〇、一三三	三、〇〇〇	一〇、一三三	三、〇〇〇	一〇、一三三	三、〇〇〇	一〇、一三三	三、〇〇〇
三十七年	計	一〇、一三三	三、〇〇〇	一〇、一三三	三、〇〇〇	一〇、一三三	三、〇〇〇	一〇、一三三	三、〇〇〇
	其他	一〇、一三三	三、〇〇〇	一〇、一三三	三、〇〇〇	一〇、一三三	三、〇〇〇	一〇、一三三	三、〇〇〇

2-1326

年次 類別	三 輸 入 港 別	
	横 濱	神 戸
三十二年 計
三十二年 其他
三十二年 計
三十二年 其他
三十二年 計
三十二年 其他
三十二年 計
三十二年 其他

三 輸 入 港 別

年次 類別	三 輸 入 港 別	
	横 濱	神 戸
三十二年 計
三十二年 其他
三十二年 計
三十二年 其他
三十二年 計
三十二年 其他
三十二年 計
三十二年 其他

2-1 3 2 6



三十一年			三十二年			三十三年			三十四年			三十五年			三十六年			三十七年			三十八年					
計	其他	籾入	計	其他	籾入	計	其他	籾入	計	其他	籾入	計	其他	籾入	計	其他	籾入	計	其他	籾入	計	其他	籾入			
三九,九七五	六,七五九	三三,二一六	三九,九七五	六,七五九	三三,二一六	三九,九七五	六,七五九	三三,二一六	三九,九七五	六,七五九	三三,二一六	三九,九七五	六,七五九	三三,二一六	三九,九七五	六,七五九	三三,二一六	三九,九七五	六,七五九	三三,二一六	三九,九七五	六,七五九	三三,二一六	三九,九七五	六,七五九	三三,二一六
...	

2-1326



四再輸出回別

年次	清	國	韓	國	露領	細亞	其	他	計
四十一年	115	40	151	324	630	77	157	555	3330
三十九年	130	61	140	266	645	161	491	318	3183
三十八年	167	71	141	332	1100	147	400	340	3400
三十七年	152	57	160	523	1526	267	400	340	3400
三十六年	27	15	15	65	327	16	367	200	2000
三十五年	0	0	6	11	33	16	367	200	2000
三十四年	100	110	110	330	1590	130	367	200	2000
三十三年	66	78	78	376	626	153	367	200	2000
三十二年	105	140	140	381	541	140	367	200	2000
三十一年	116	154	154	431	530	116	367	200	2000

五、輸入増減、事實及其原因

本品毎年ノ輸入数量ハ前項示ヌカ如クニシテ三十二年ヨリ四十一年ニ至ル十年間ニ於テ最多額ノ輸入アリシハ三十七年ノ八千六百七十七万八千八百一十九ニシテ三十二年ノ五千二百四十二万八千八百三十九ニシテ最額トス而シテ三十二年ニ於テハ前年ノ六千五百八十二万七千九百九十九ニ比シテ六百六十四万七千二百三十九ノ増加セリ之レ前年ニ於テハ多数ノ注文ヲ受ケタルト原價低落、為メ需用外ノ見込買入ヲ爲シタルモノアリシト翌三十二年ヨリ輸入額ノ増徴セラル、モアルトニ因リ今年内ニ輸入



入スルツ務ノタル等相俟テ輸入増加ノ原因
 ラナセリ然ルニ翌三十二年ニ於テハ産地ノ
 卓價及運賃騰貴シタル為メ自然買控ヲ為シ
 加フルニ船舶ノ缺乏ニ依リ面商ノ進延シタ
 ルト又一ハ内地ニ於ケル産出量増加シタル
 トニ因リ前年ニ比シテ千五百四十八万三千六
 百十八丸ヲ減少シ越テ三十三年三十四年ニ
 於テ増加セルモノハ三十二年ニ於テ仕入高
 特ニ少カリシ及動トシテ比較的少量ノ注文
 ヲ發シタルト三十四年十月ヨリ改正関税ノ
 實施サルハヲ以テ見越輸入ノ為シタルニ因
 リ翌三十五年ニ於テモ引續キ多額ノ輸入ヲ
 リテ七千五百四十八万百五十四丸ヲ示シタ

ルニ三十六年ニ於テハ減シテ五千九百七十
 八万二千六丸トナレリ蓋シ船便ノ都合ニ基
 因スルキニ輸入米油カ其産額ヲ減少シタル
 ニ因ルニ三十七年ニ於テハ全年十月以降関税
 ノ増徴セララル見越シ九月頃迄ニ多大ノ輸
 入ヲ為シタル為メ八千六百六十七万千八百一
 九ヲ以テ類ナキ多額ノ輸入ヲ見ルニ至リタ
 ルカ三十八年ニ於テハ再々多額ノ減少ヲ示
 スニ至レリ之レ全年ニ於テハ前年ノ見越輸
 入アリタル為メ全年ニ持越シタルモノ多額
 ナリシト全年一月非常特別税法ノ施行ニ依
 リ七月以後更ニ関税ノ増徴セララルコト、
 ナリタル結果本品ノ賣價ヲ引上ケサル可ラ

2-1326

0092

備考表 中ノヤスター及勝利ハ米油ニシテ

平均	十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月	五月	四月	三月
三、四七	三、五八	三、五九	三、五三	三、五九	三、五九	三、四九	三、四七	三、四七	三、四九	三、四二
三、二八	三、三八	三、三六	三、三五	三、三五	三、二六	三、二五	三、二七	三、二七	三、二五	三、二二
三、三八						三、三六	三、三一	三、三一	三、三一	三、二八
三、三七	三、八四	三、八一	三、八八	三、七九	三、七九	三、七五	三、七一	三、六九	三、六六	三、六五
三、五九	三、六三	三、六一	三、五八	三、五八	三、五五	三、五五	三、五一	三、四九	三、四八	三、四五
三、六二	三、八五	三、八〇	三、七五	三、六五	三、六二	三、六二	三、五二	三、五〇	三、五〇	三、五〇
三、九一	三、九四	三、九三	三、九三	三、九二	三、九一	三、九一	三、八九	三、八八	三、八七	三、八五
三、七六	三、七六	三、七六	三、七五	三、七四	三、七三	三、七三	三、七一	三、七一	三、七一	三、七〇
三、八六	三、八八	三、八八	三、八八	三、八八	三、八八	三、八八	三、八七	三、八七	三、八七	三、八七

平均	十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月	五月
三、九三	三、九三	三、九三	三、九三	三、九三	三、九三	三、九三	三、九三	三、八八
三、二五	三、二五	三、二五	三、二五	三、二五	三、二五	三、二五	三、二五	三、二二
三、二八	三、二八	三、二八	三、二八	三、二八	三、二八	三、二八	三、二八	三、二五
三、二八	三、二八	三、二八	三、二八	三、二八	三、二八	三、二八	三、二八	三、二五
三、二八	三、二八	三、二八	三、二八	三、二八	三、二八	三、二八	三、二八	三、二五
三、二八	三、二八	三、二八	三、二八	三、二八	三、二八	三、二八	三、二八	三、二五
三、二八	三、二八	三、二八	三、二八	三、二八	三、二八	三、二八	三、二八	三、二五
三、二八	三、二八	三、二八	三、二八	三、二八	三、二八	三、二八	三、二八	三、二五
三、二八	三、二八	三、二八	三、二八	三、二八	三、二八	三、二八	三、二八	三、二五
三、二八	三、二八	三、二八	三、二八	三、二八	三、二八	三、二八	三、二八	三、二五

2-1326

0094

七、需用程度

ハ、スマトヲ油ナリ
 表中ノ價格ハ、横濱ニ於ケルモノナリ但
 シ、△印ハ東京ニ於ケル値段ナリ

本品ノ用途ハ、特ニ茲ニ記述スル迄ニテ其
 大部分ハ燈火用ニ供セラル、又ノニシテ又
 往々害蟲駆除用、石油發動機用トシテ使用セ
 ラル、而シテ其ノ需用ノ程度ニ至テハ之ニ關
 スル統計ヲ得サルヲ以テ記述スルヲ得スト
 茲ニ内國ニ供給セラル、數量ヲ掲ケレハ次
 表ノ如クニシテ、一々年ノ供給量ハ平均百八
 千八百三十三石ナリ、而シテ全供給量ノ
 約七割ハ輸入石油ニシテ、内國油ハ僅ニ三割

ニ過キサルヲ以テ、假リニ供給量ヲ以テ需用
 量ト見ル、尙ハ未タ内國油ノミヲ以テ本邦ノ
 需用ヲ充テス能ハス勢ハ、外油ノ輸入ニ依リ
 之ヲ補充セリ、可ラサルモノアルカ如シ

年次	外油ノ供給量	内國油ノ供給量	全供給量	全供給量中、 外油ノ割合	全供給量中、 内國油ノ割合
四十一年	一、四七、一五五	八、八八三	一〇、三五四	一四、一	八五、九
三十九年	一、三三、六三九	七、二二〇	八、五五九	一五、五	八四、五
三十八年	一、三三、一〇一	五、六三三	六、九六四	一九、二	八〇、八
三十七年	一、七二、三九八	五、五六一	二、二四九	七六、一	二三、九
三十六年	一、三三、六三五	五、〇三三	一、七七一	七六、三	二三、七
三十五年	一、三三、六三五	五、〇三三	二、〇八八	七五、八	二四、二
三十四年	一、四四、四八六	五、一四七	一、九六六	一四、七	八五、三

三十三年	一四、一九、一八	三八、九九、八四	一八、〇、〇、〇	七、八、四	二、一、五
三十二年	一〇、九七、一九〇	二四、一、〇、九	一、三三九、六六	八、一、九	一、六、一
三十一年	一四、一七、五八四	一六、三、〇、九	一、五八、〇、六四三	八、九、六	一、〇、三

備考 外油ノ供給方ハ輸入数量ヨリ再輸出数量ヲ減シタルモノナリ
越後油ノ数量ハ長岡鑛業會議所ノ調査ニ依ル

米國油ハ其品質良好ニシテ其需用少カラズ
殊ニ近年内國油及スマトラ油ノ調令制トシテ使用セラルト云フ後ラ本油ハ其輸入數量ニ於テ近年々多少ノ増減アリト云々概テ増加シ且フ輸入石油中最モ多額ヲ占ム而シテ本油ヨリハ「チヤスタ」松印、勝利印及印等

ノ種類アリラ「チヤスタ」ハ關東向松印ハ關西向トシテ供給セラレ又勝利印ハ三十八年ヨリ輸入セラレ序印ハ四十二年ヨリ輸入セラレツバアリ
露油ハ其品質越後油ニ類スルヲ以テ越後油ノ産額増加シ其需用多キニ從テ該油ノ需用ヲ減少セリ即チ三十二年ニ於テ減少シタルハ之ニ依ルモノニシテ三十四年ニハ松印石油ヲ輸入シタルモ其賣行少ク又曩ニ粗急ナルホル子才産石油ヲ露油ノ名稱ヲ以テ輸入販賣セシカ爲メ露油ノ名稱ヲ墮レ越後油ノ爲メニ其販路ヲ奪ハルニ至リシカ三十五年ニハ再々良質ナル純粹ノ露油ヲ「バク」ヨリ

2-1326

0096

輸入に其聲價ヲ挽回セシ以来品價比較的良
 好ナルニ加、其價值高キ米油ニ比シ格安ナ
 ルノ結果一般ニ需用ヲ喚起セシカ三十八年
 九月「バク」ニ於ケル騷擾以来産地ノ製油業
 回復セズ厚價高キカ爲メ之ヲ輸入スルニ到
 底越後油ニ對抗スルニ由ナキヲ以テ其輸入
 額ヲ減少セリ
 常領印度ヨリ輸入セルモノハ初メ「ボル」才
 ヨリ輸入セルモノハ初メ「ボル」才
 倒セラレ之レカ需用少キ爲メ三十五年以後
 「ボル」才油ノ輸入ハ杜絶シ更ニ三十七年ニ
 至リ「スマ」ト「ラ」産石油ヲ輸入セル以来引續キ
 多額ノ輸入アリ現今タンク石油トシテ販賣

セラル、モノハ即ケ本品ナリ而シテ本油ハ
 其品類内國油ニ類似スルヲ以テ内國油ノ増
 加スルニ從テ自然減少ス、キモノナラシメ
 今日米内國油ノミヲ以テ全需用ヲ充タス
 一能ハサルノミナラス米油ニ比シ其價值格
 安ナルニ依リ相当ノ需用アリ
 左ニ参考ノ爲メ國別輸入割合ヲ示ス、

國別	四十年	四十九年	三十八年	三十七年	三十九年
北米合衆國	九三、五七〇	六五、四一〇	九四、〇九〇	七二、五七〇	九三、五七〇
露領亞細亞	三三、一八六	二二、五	二四、八四九	一九九	三三、一八六
常領印度	五、五九六	五、三三三	五、五九六	二、五三三	五、五九六
英領印度	、	、	、	、	、
伊比利	、	、	、	、	、

2-1326

0097

2-1326

九、世界に於ける原油ノ産額

年	石	噸
三十一年	1,000,000,000	10,000,000
三十二年	1,100,000,000	11,000,000
三十三年	1,200,000,000	12,000,000
三十四年	1,300,000,000	13,000,000
三十五年	1,400,000,000	14,000,000

然ラサルモノトアリ前者ハスタンダードオイル
 會社ノ輸入スルヲヤス及勝利印石油ニシ
 ラ五米丸入ノ錐ニ初ラ木製ノ函ニ詰メタル
 エノヲ一函トナシ主ニ船積輸送スルモノナ
 判又後者ニ屬スルモノハ前記會社ノ所貯石
 油及ライシシノサシ石油會社ノタンク石油
 ニシテ函詰トナサス石油ノ俵タンク船積
 込ニ輸送ス

六、荷造ノ方法

年	計	其他	伊大和	美領可度	英領可度	露領亞細亞	北米合衆國	國別
三十一年	1,000,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	100,000,000	輸入石
三十二年	1,100,000,000	110,000,000	110,000,000	110,000,000	110,000,000	110,000,000	110,000,000	輸入石
三十三年	1,200,000,000	120,000,000	120,000,000	120,000,000	120,000,000	120,000,000	120,000,000	輸入石
三十四年	1,300,000,000	130,000,000	130,000,000	130,000,000	130,000,000	130,000,000	130,000,000	輸入石
三十五年	1,400,000,000	140,000,000	140,000,000	140,000,000	140,000,000	140,000,000	140,000,000	輸入石

年	計	其他
三十一年	1,000,000,000	100,000,000
三十二年	1,100,000,000	110,000,000
三十三年	1,200,000,000	120,000,000
三十四年	1,300,000,000	130,000,000
三十五年	1,400,000,000	140,000,000

テ臺灣、静岡縣、秋田縣、北海道、長野縣等ヨリ又
 産出シ、今本邦ニ於ケル原油産出額ヲ掲ケレ
 ハ、次ノ如クニシテ、年々其産額増加セラルヲ見

年次	新潟縣	静岡縣	秋田縣	北海道	長野縣	青森縣	群馬縣	山形縣	計
四十一年	1,561	5,526	531	3,334	1,127	447			12,026
三十九年	1,520	5,425	472	3,526	526	1,126			12,995
三十八年	1,513	5,327	545	3,526	415				12,346
三十七年	1,513	5,217	652	3,526	415				12,223
三十六年	1,513	5,149	727	3,526	415				12,330
三十五年	1,513	5,111	827	3,526	415				12,492
三十四年	1,513	5,051	927	3,526	415				12,432
三十三年	1,513	4,961	1,027	3,526	415				12,442

次ニ主産地タル新潟縣ニ於ケル石油（燈油）
 ノ産出額ヲ長岡鑛業會議所ノ調査ニ依リ掲
 クレハ左ノ如シ

三十二年	4,715	6,454	114	96	373				11,748
三十一年	4,621	6,311	114	85	354				11,485

2-1326

年次	数量	價額
四十一年	八〇八八三一石	九八九一・一五九四
三十九年	七二二二〇〇	七三〇六九九一
三十八年	五六三三四〇	五九七三三三二
三十七年	五三六一三〇	六二七三二四六
三十六年	五〇二四九九	四九〇九八五九
三十五年	五〇一〇九八	四〇七六六九七
三十四年	五一四二〇七	四一八九六八一
三十三年	三八九九八四	三六〇六三四一
三十二年	二四一八七九	二二二二八四〇
三十一年	一六三〇五九	九六一五七八

本邦産石油之漸次其品質改善セラレ其需用亦増加シ来リ價格モ逐次外國石油ノ價格ニ接近シ、アソト並ニ外油ハ内國油ヨリ格高ナルニ拘ラス一般ニ氣受ヨク且内地産出高ノ少量ナル爲メ自然内國油ハ外國油ノ値較ニ廉リ振合ラ付ルカ如キ傾アリト云フ左ニ示シ油ニ於ケル上等油ノ價格ヲ掲クヘシ

年次	一月	二月	三月	四月	五月	六月
三十三年	一三五〇	一四三〇	一五五〇	一七一五	一八〇〇	一八〇〇
三十四年	一六五〇	一八三〇	一七五〇	一七三〇	一七〇〇	一六八〇
三十五年	一七五〇	一七二五	一七〇〇	一七〇〇	一六五〇	一六五〇
三十六年	二〇一〇	二〇一〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇二五	二〇〇〇
三十七年	二六五〇	二八〇〇	二五五〇	二五五〇	二四二五	二五〇〇
三十八年	二六四三	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇	二四二五	二五〇〇
三十九年	二八七〇	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	三三九〇
四十年	二八七〇	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇
四十一年	三四五〇	三四五〇	三六八〇	三六八〇	三六八〇	三六八〇

2-1326

月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均
内國品	1825	2000	2150	2275	2635	2540	1933
外國品	2785	2965	2950	2950	2810	2865	2978
比較	1700	1685	1690	1750	1770	1770	1742
輸入石油	1635	1600	1670	1820	1930	2025	1737
品質	1965	2050	2120	2350	2450	2550	2094
及	2350	2400	2750	2750	2675	2650	2558
近	2300	2300	2343	2440	2500	2500	2413
似	2335	2425	2490	2580	2590	2635	2418
セ	3200	3250	3300	3500	3450	3450	3230
リ	3200	3280	3360	3500	3480	3450	3230
ト	3280	3360	3360	3680	3680	3680	3340
言							
フ							
テ							
ヤ							
ス							
ク							
下							
ハ							

一三、内國品ト外國品トノ比較
 内國油ノ品質ハ一般ニ輸入石油ノ品質ニ及
 ハスト蓋モ裁後ノ上等油ハ其ノ價勝利印及
 タンク石油ニ近似セリト云フヤスク下ハ
 輸入石油中最良ノモノナリ

2-1326



5

二 輸入数量再輸出数量
パラフィン蠟

年次	輸入数量		再輸出数量	
	計	再輸出	計	再輸出
二十六年	九、六一四、八五六	九、四八、五三一	六、一六六、六	九、三六二
二十七年	一、二、一一、一八八	一、二、六二、八八五	一、六八、七一七	一、五、四四六
二十八年	六、九六、〇五〇	一、〇、〇、三三四	三、五九、九〇五	五、八八〇
二十九年	一、〇、五〇、二、八二八	一、六、三、五、二、三六	七、三、六、二、八	一、〇、三、六、四
三十年	六、八、三、一、〇、二、七	一、四、四、四、三、一一	一、四、〇、〇、二	一、一、三、六、八
計	六、八、三、一、〇、二、七	一、四、四、四、三、一一	一、四、〇、〇、二	一、一、三、六、八
四十一年	六、八、三、一、〇、二、七	一、四、四、四、三、一一	一、四、〇、〇、二	一、一、三、六、八
其他	六、八、三、一、〇、二、七	一、四、四、四、三、一一	一、四、〇、〇、二	一、一、三、六、八

三 輸入国別

年次	合衆国		英		英領印度		荷		其他		計
	行	日	行	日	行	日	行	日	行	日	
二十六年	六、八、三、一、〇、二、七	三、三、六、二、八、八	一、〇、五、〇、二、八二八	一、〇、五、〇、二、八二八	一、〇、五、〇、二、八二八	一、〇、五、〇、二、八二八	一、〇、五、〇、二、八二八	一、〇、五、〇、二、八二八	一、〇、五、〇、二、八二八	一、〇、五、〇、二、八二八	六、八、三、一、〇、二、七
二十七年	一、二、一一、一八八	一、二、六二、八八五	一、二、一一、一八八	一、二、六二、八八五	一、二、一一、一八八	一、二、六二、八八五	一、二、一一、一八八	一、二、六二、八八五	一、二、一一、一八八	一、二、六二、八八五	一、二、一一、一八八
二十八年	六、九六、〇五〇	一、〇、〇、三三四	六、九六、〇五〇	一、〇、〇、三三四	六、九六、〇五〇	一、〇、〇、三三四	六、九六、〇五〇	一、〇、〇、三三四	六、九六、〇五〇	一、〇、〇、三三四	六、九六、〇五〇
二十九年	一、〇、五〇、二、八二八	一、六、三、五、二、三六	一、〇、五〇、二、八二八	一、六、三、五、二、三六	一、〇、五〇、二、八二八	一、六、三、五、二、三六	一、〇、五〇、二、八二八	一、六、三、五、二、三六	一、〇、五〇、二、八二八	一、六、三、五、二、三六	一、〇、五〇、二、八二八
三十年	六、八、三、一、〇、二、七	一、四、四、四、三、一一	六、八、三、一、〇、二、七	一、四、四、四、三、一一	六、八、三、一、〇、二、七	一、四、四、四、三、一一	六、八、三、一、〇、二、七	一、四、四、四、三、一一	六、八、三、一、〇、二、七	一、四、四、四、三、一一	六、八、三、一、〇、二、七
計	六、八、三、一、〇、二、七	一、四、四、四、三、一一	六、八、三、一、〇、二、七	一、四、四、四、三、一一	六、八、三、一、〇、二、七	一、四、四、四、三、一一	六、八、三、一、〇、二、七	一、四、四、四、三、一一	六、八、三、一、〇、二、七	一、四、四、四、三、一一	六、八、三、一、〇、二、七

2-1326

0103

年次	三、輸入港別									
	横濱	神戸	大阪	長崎	函館	青森	秋田	山形	新潟	計
三十二年	1,234,567	2,345,678	3,456,789	4,567,890	5,678,901	6,789,012	7,890,123	8,901,234	9,012,345	10,123,456
三十三年	1,345,678	2,456,789	3,567,890	4,678,901	5,789,012	6,890,123	7,901,234	8,012,345	9,123,456	10,234,567
三十四年	1,456,789	2,567,890	3,678,901	4,789,012	5,890,123	6,901,234	7,012,345	8,123,456	9,234,567	10,345,678
三十五年	1,567,890	2,678,901	3,789,012	4,890,123	5,901,234	6,012,345	7,123,456	8,234,567	9,345,678	10,456,789
三十六年	1,678,901	2,789,012	3,890,123	4,901,234	5,012,345	6,123,456	7,234,567	8,345,678	9,456,789	10,567,890
三十七年	1,789,012	2,890,123	3,901,234	5,012,345	6,123,456	7,234,567	8,345,678	9,456,789	10,567,890	11,678,901
三十八年	1,890,123	2,901,234	4,012,345	5,123,456	6,234,567	7,345,678	8,456,789	9,567,890	10,678,901	11,789,012
三十九年	1,901,234	3,012,345	4,123,456	5,234,567	6,345,678	7,456,789	8,567,890	9,678,901	10,789,012	11,890,123
四十年	2,012,345	3,123,456	4,234,567	5,345,678	6,456,789	7,567,890	8,678,901	9,789,012	10,890,123	11,901,234
計	15,678,901	16,789,012	17,890,123	18,901,234	19,012,345	20,123,456	21,234,567	22,345,678	23,456,789	24,567,890

四、輸入増減ノ事實

本品ハ主トシテ燐寸製造用原料若クハ西洋
 蠟燭ノ製造ニ用ヒラル、之ノニシテ蠟燭用
 ハ帯ニ其大部分ヲ占ムルカ為、本邦ニ於テ
 ル本蠟生産者ノ多少并ニ價格ノ高低ハ本品
 ノ輸入ニ至大ノ關係アリ即チ明治三十七年
 及三十九年ノ如キハ其好適例ニシテ我國ニ
 於ケル本蠟不作ノ結果本品及チ其ありん
 輸入ヲ増加シタリ然ルニ明治四十一年ニ於テ
 ル輸入減少ハ稍具趣ヲ異ニシ全ク燐寸業ノ
 不況ニ伴ヒタルモノニシテ全所要品ノ輸入
 ヲ減シタルモノノ一之レカ主因ヲナセリ

2-1326



五、價格ノ方途

本品ノ價格ハ其度數ニヨリ定マレルニシテ概シテ其度ノニハ高ク漸次其度數ノ減スルニ從テ其價ヲ低下ス米回品ハ我國輸入數量ノ大部分ヲ占ムルヲ以テ常ニ市價ヲ左にスルノ勢カク有シ他ノ輸入品ハ既ニ之レニ伴隨スルノ傾向アリ今最近三ヶ年間ニ於ケル米回品ノ傾向カ非ト會社ノ製品百封度ニ對スル市價ヲ掲記スルハ左ノ如シ

華氏百封度	最古	最近	最古	最近	最古	最近
全百二十度	一〇〇・二五	九〇・五	九〇・五	九〇・五	一〇〇・五	九〇・五
全百二十五度	一一五・二五	一一〇・〇	一一〇・〇	一一〇・〇	一一五・二五	一一〇・〇
全百三十五度	一三〇・七五	一二五・〇	一二五・〇	一二五・〇	一三〇・七五	一二五・〇
全百四十五度	一四五・二五	一四〇・〇	一四〇・〇	一四〇・〇	一四五・二五	一四〇・〇
全百五十五度	一六〇・七五	一五五・〇	一五五・〇	一五五・〇	一六〇・七五	一五五・〇
全百六十五度	一七五・二五	一七〇・〇	一七〇・〇	一七〇・〇	一七五・二五	一七〇・〇
全百七十五度	一九〇・七五	一八五・〇	一八五・〇	一八五・〇	一九〇・七五	一八五・〇
全百八十五度	二〇五・二五	二〇〇・〇	二〇〇・〇	二〇〇・〇	二〇五・二五	二〇〇・〇
全百九十五度	二二〇・七五	二一五・〇	二一五・〇	二一五・〇	二二〇・七五	二一五・〇
全百一十度	二三五・二五	二三〇・〇	二三〇・〇	二三〇・〇	二三五・二五	二三〇・〇

六、荷造ノ方法

度ノニハ麻袋乃至ツタ袋入トナリ居レリ袋入ハ百封度内外ニシテ樽入箱入ハ三百三十封度程ノ入數量アルモノヲ普通トスルニ製法會社ノ都合ニヨリ必スシメ一室ニス大用達及需要ノ程度

樽氏五十度未満(華氏百二十度)ノモノハ多ク樽子製造用原料ニ使ケラル共以外ノ其度品ハ蠟燭製造用材料ニ用ヒラル、モノ多シ近對陸海軍ニ於テ其度品ノ需要アリト聞ク其代坊間ニ於テ牛脂ニ混シ雜用トナスモノアルニ其數量何レニ樽子用迄ニ蠟燭用ニ及

2-1326

0105

ハス
 六 輸入高ノ別及
 本品ノ輸入ハ三井物産會社支店ノ手ニヨリ
 英國ニ於テ購入シ之レヲ神戸及横浜ニ輸送
 スル少量ノ全ク陣キ其他全部外高ノ手ニヨ
 リ取扱ハル
 九 輸入品ト競争ス一ノ内國品ノ有無
 昨今日本石油會社ニ於テ本品ノ製造ヲ開始
 セルニ其数量寡少ニシテ未^レ輸入品ト競争ス一
 キ状態ニ達セス

2-1326

0105

機械油

一各年輸入數量及價額並二國別

年次	北米合衆國		英吉利		獨逸		其他諸國		計
	斤	價	斤	價	斤	價	斤	價	
四十一年	九,550,000	三,800,000	一,500,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	九,550,000
四十一年	九,550,000	三,800,000	一,500,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	九,550,000
四十一年	九,550,000	三,800,000	一,500,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	九,550,000
四十一年	九,550,000	三,800,000	一,500,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	九,550,000
四十一年	九,550,000	三,800,000	一,500,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	九,550,000
四十一年	九,550,000	三,800,000	一,500,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	九,550,000
四十一年	九,550,000	三,800,000	一,500,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	九,550,000
四十一年	九,550,000	三,800,000	一,500,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	九,550,000
四十一年	九,550,000	三,800,000	一,500,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	九,550,000
四十一年	九,550,000	三,800,000	一,500,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	九,550,000

再輸出数量價額並二國別

年次	清		滿洲		南洋		其他		計
	斤	價	斤	價	斤	價	斤	價	
四十一年	八,500,000	一,700,000	一,500,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	八,500,000
四十一年	八,500,000	一,700,000	一,500,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	八,500,000
四十一年	八,500,000	一,700,000	一,500,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	八,500,000
四十一年	八,500,000	一,700,000	一,500,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	八,500,000
四十一年	八,500,000	一,700,000	一,500,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	八,500,000
四十一年	八,500,000	一,700,000	一,500,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	八,500,000
四十一年	八,500,000	一,700,000	一,500,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	八,500,000
四十一年	八,500,000	一,700,000	一,500,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	八,500,000
四十一年	八,500,000	一,700,000	一,500,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	八,500,000
四十一年	八,500,000	一,700,000	一,500,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	一,000,000	八,500,000

2-1326

年次	英領印度	比洋領群島	露本利利	其他諸國	計
四十一年	八三	六五	七五		二二八
三十九年		三三	三九		七二
三十八年				八五	八五
三十七年			Wassa	Wassa	二二八
三十六年		六八		二二八	二九六
三十五年				二二八	二二八
三十四年				二二八	二二八
三十三年				二二八	二二八
三十二年				二二八	二二八
三十一年				二二八	二二八

備考 前表中ニハ 機械油、外、ラ、フ、イ、シ、油、

二輸入増減ノ事實及其原因

明治三十一年以後四十年ニ至ル十年間ニ於ケル毎年ノ輸入数量ハ年ニ依リ著シク増減アリト雖モ三十二年ノ最低五百六十六万八千八百八十八斤ヨリ三十九年ノ最高千三百九十一万八千九百十五斤ノ間ニ昇降レ一ケ年平均九百三十八万六千六百十二斤(約三万四千七百六十四石)ノ輸入アリ而シテ三十二年ニ於テ若シト減少シテ示シタルハ内國ニ於ケル製造高ノ益々増加シ且ツ外國製品ニ比シ内國製品ノ低廉ナルカ爲メ内國製品ノ需用増加シタルニ因レリ然ルニ翌三十三年ニ於テハ千四百四十七万七千五百二十斤ノ輸入

2-1326



リテ前年、殆ント倍額ニ達シタリ惟フニ之
レ内國ニ於ケル需用、増進セルコト其主因
タルヘシト雖モ亦外高ノ見越輸入ヲ爲シタ
ル者多カリシニ因ルモノナルヘク越テ三十
四年ニハ再ヒ前年ノ殆ント半額ニ減シタリ
之レ蓋シ「マシ」油、如キ需用最モ多キ機械
油ノ製造高内國ニ於テ漸次増加シタルト一
方ニ於テハ紡績工場ニ於テ夜業廢止ノ事實
アリ其他一般ノ工場不景氣ノ影響トシテ需
用大ニ減退シタルニ因ル而シテ由來輸入外
高カ販路ノ擴張ニ勉メツ、アリタル結果ト
シテ從來種油ヲ使用シタル者モ本品ノ廉價
ニシテ其使用ノ輕便ナルヲ感知シ一般ニ其

需用増加シタルト之ヲ使用スヘキ機械、年
々増加シ來リタルトニ因リ三十五年以後ハ
多少ノ高低アリト雖モ概シテ増加シ三十八
年ニ至リテハ戰時ノ事トテ鉄道船舶等交通
機關ノ頻繁ナルニ加ヘテ諸種ノ工場亦日夜
繁忙ヲ極メタルヲ以テ本品ノ需用頗ル増加
シ爲メニ千二百四十九万八千九百九十九斤ノ輸入
ヲ見翌三十九年ニ於テモ引續キ新需用者ノ
増加シタルト共ニ益々其需用増進シタルト
今年十月ヨリ本品ニ對スル輸入額概テ増徴
セラル、コト、ナリタルニ依リ早クモ其實
施期日前ニ於テ見越輸入ヲ催進シタルモノ
アリタルニ因リ全年ニ於テハ千三百九十一

2-1326



万八千九百十五斤ヲ多数ノ輸入額ヲ示
 スニ至レリ更ニ四十年ニ於テ減少セシハ外
 國品ハ關稅増徴ノ結果内國品ニ比シ一層高
 價トナリタルカ爲メ需用者ノ多クハ内國品
 ヲ以テ其需用ヲ充クスニ至リタルト一方ニ
 前年ニ於ケル見越輸入ノ影響ヲ受ケタル
 本品ノ輸出地ハ北米合衆國英國獨逸等ニシ
 其重ナルモノハ北米合衆國ニシテ其大部
 分全輸入數量ノ九割八分ハ全國ノ製品ナリ
 トス
 三 價格ノ高低
 機械油ノ價格ハ石油ニ於テハカ如ク其変動

甚ニカタニ一ヶ年ニ一回ノ高低ヲ生スルノ
 儀ニリトスノ爲メニ一高會ニ付開ク所ニ
 依リハ三十七年以後三十八年ニ於テ其價格
 ニ変動ナクニシテ九年中ニ於テハ關稅ノ増徴
 ニ依リ三分方ニ値上ヲ見セシメ更ニ翌四十年ニ
 於テ五分方ニ對シテ其後今日迄変動ナシト
 云ノ左ニ全商會ノ機械油ノ重ナルモノ
 ノ其價格ノ高低ニシテ

年	エンジン油	トランス油	エンジン油	トランス油
三十八年	一六三三・九三二	八四〇・四七一	八四〇・四八九	二二六・六七四
三十九年	一六七二・九六六	八六五・四八五	八六五・四八四	二二五・六九四
四十年	一七〇一・一〇一	九一〇・五三〇	九一〇・五三〇	二二一・七三〇
四十一年	一七〇一・一〇一	九一〇・五三〇	九一〇・五三〇	二二一・七三〇

2-1326

三十七年 一六二一九三二 八四〇一四七一 八四〇一四八九 二一六一六七四

次ニ紐育スタンダードオイル會社ニ於テ輸入
セル機械油ノ價格ヲ掲ケレハ次ノ如シ

年	シリンドル油 (一五三斗入)	スピンドル油 (一五三斗入)	グライモ油 (一五三斗入)	グアルブ油 (一五三斗入)	マレン油 (一五三斗入)	エンジン油 (一五三斗入)
四十一年	一四三〇一四三〇	九八〇一四一〇	八三〇一三五〇	八三〇一六八〇	五二〇一四二〇	五三〇一四三〇
四十二年	一四三〇一四三〇	九八〇一四一〇	八三〇一三五〇	八三〇一六八〇	五二〇一四二〇	五三〇一四三〇
四十三年	一四三〇一四三〇	九八〇一四一〇	八三〇一三五〇	八三〇一六八〇	五二〇一四二〇	五三〇一四三〇
四十四年	一四三〇一四三〇	九八〇一四一〇	八三〇一三五〇	八三〇一六八〇	五二〇一四二〇	五三〇一四三〇
四十五年	一四三〇一四三〇	九八〇一四一〇	八三〇一三五〇	八三〇一六八〇	五二〇一四二〇	五三〇一四三〇
四十六年	一四三〇一四三〇	九八〇一四一〇	八三〇一三五〇	八三〇一六八〇	五二〇一四二〇	五三〇一四三〇
四十七年	一四三〇一四三〇	九八〇一四一〇	八三〇一三五〇	八三〇一六八〇	五二〇一四二〇	五三〇一四三〇
四十八年	一四三〇一四三〇	九八〇一四一〇	八三〇一三五〇	八三〇一六八〇	五二〇一四二〇	五三〇一四三〇
四十九年	一四三〇一四三〇	九八〇一四一〇	八三〇一三五〇	八三〇一六八〇	五二〇一四二〇	五三〇一四三〇
五十年	一四三〇一四三〇	九八〇一四一〇	八三〇一三五〇	八三〇一六八〇	五二〇一四二〇	五三〇一四三〇
五十一年	一四三〇一四三〇	九八〇一四一〇	八三〇一三五〇	八三〇一六八〇	五二〇一四二〇	五三〇一四三〇
五十二年	一四三〇一四三〇	九八〇一四一〇	八三〇一三五〇	八三〇一六八〇	五二〇一四二〇	五三〇一四三〇
五十三年	一四三〇一四三〇	九八〇一四一〇	八三〇一三五〇	八三〇一六八〇	五二〇一四二〇	五三〇一四三〇
五十四年	一四三〇一四三〇	九八〇一四一〇	八三〇一三五〇	八三〇一六八〇	五二〇一四二〇	五三〇一四三〇
五十五年	一四三〇一四三〇	九八〇一四一〇	八三〇一三五〇	八三〇一六八〇	五二〇一四二〇	五三〇一四三〇
五十六年	一四三〇一四三〇	九八〇一四一〇	八三〇一三五〇	八三〇一六八〇	五二〇一四二〇	五三〇一四三〇
五十七年	一四三〇一四三〇	九八〇一四一〇	八三〇一三五〇	八三〇一六八〇	五二〇一四二〇	五三〇一四三〇
五十八年	一四三〇一四三〇	九八〇一四一〇	八三〇一三五〇	八三〇一六八〇	五二〇一四二〇	五三〇一四三〇
五十九年	一四三〇一四三〇	九八〇一四一〇	八三〇一三五〇	八三〇一六八〇	五二〇一四二〇	五三〇一四三〇
六十年	一四三〇一四三〇	九八〇一四一〇	八三〇一三五〇	八三〇一六八〇	五二〇一四二〇	五三〇一四三〇

尚内國製品ノ價格ヲ示セハ左ノ如シ

因ニ本品ハ内外製品トモ其種類甚ク多ク加
フルニ之ヲ製造スル會社ニ依リ其品質ヲ異
ニセルヲ以テ直ニ價格ノ高低ヲ比較スル能
ハスト之ヲ

四 輸送荷造ノ方法

本品ハ平均五十米瓦入、木製圓長形、樽ニ
詰メタル儘ニテ船積ニ輸送スルモノニシテ
其他何等ノ荷造ヲ爲サス
五 需用ノ程度及将来ノ見込

機械油中普通需用ノ多キハ「マシ」油及「エシ
ジ」油ニシテ然カモ之等ノモノハ内外製品
トモ其實殆ント全一ナルニ拘ハラズ外國製
品ハ内國製品ニ比シ其價格高キヲ以テ自然
格安ナル内國品ノ需用多ク之ニ反レテ「シ」

大生産地、生産額

シドール油及「スピンドル」油に至リハ其品質ニ
 優劣アリテ内國製品ノ彼ニ及ハサルモノナ
 ルカ故ニ外國製品ノ供給ヲ仰クモノ多ク殊
 ニ「シリンドル」油中「グアキエ」と高會ノ製品
 ナル「六百」印「シリンドル」油ト稱スル物ハ全
 高會ノ專賣トモ云フヘク其品質ノ良好ナル
 他會社ノ製品ノ能ク及フ所ニ「ラスト」云フ
 又輸入機械油中米國製品ノ需用最モ多ク英
 國製品ハ其品質良好ナルモ米國製品ニ比シ
 價格高キヲ以テ需用少ク又獨逸製品ハ品質
 不良ナルト價格高キカ爲メ其需用又少シト
 云フ

今北米合衆國ニ於ケル千九百年ヨリ千九百
 七年(三十三年)一四十年)迄、本品家産高ヲ掲
 クレハ左ノ如シ

年	数量	円	價	額	單	價
四十年	1,520,380	3,901,550	1,911,000	3,810,000	2.50	2,200
三十九年	1,512,690	3,120,310	1,869,000	3,050,000	2.00	2,200
三十八年	1,337,300	2,386,510	1,403,000	2,860,000	1.90	2,200
三十七年	897,380	1,813,060	1,238,900	2,070,000	1.35	2,200
三十六年	956,200	2,006,530	1,269,000	2,530,000	1.65	2,200
三十五年	822,000	1,720,900	1,080,000	2,120,000	1.30	2,200
三十四年	750,600	1,580,330	1,006,000	2,000,000	1.30	2,200
三十三年	722,000	1,490,290	993,000	1,960,000	1.30	2,200

七運搬中損害、有無及其程度

2-1326

0112

前項記載シタルカ如ク本品ハ木製ノ堅固ナル樽ニ詰リ輸送スルモノナルカ故ニ殆ント輸送中ニ於テ損害ナキモ又全ク之レナキニアラズ即其損害ノ多クハ樽ノ箍ニ弛ミヲ生シ之レニヨリテ漏失スルニアリ而シテ其程度ハ平均一二分方ノ損失アリト云フ

八 輸入高ノ別
 本品ハ概テ外國商會ノ手ニ依リ輸入セラレ而シテ其重ナルモノハ紐育スタンダードオイル會社及グアキエール、オイル會社ニシテ輸入機械油ノ大部分ハ前記ニ會社ノ製品ナリ九 輸入品ト競争スヘキ内國品ノ有無
 内國ニ於テ製造スル機械油ノ主製産地ハ新

潟縣下ニシテ日本石油株式會社及室田石油株式會社ノ製品大部分ヲ占ム今参考ノ爲メ新潟縣下ニ於ケル各年ノ産額ヲ掲ケ輸入額ト對照スレハ左ノ如シ

年	新潟縣下ニ於ケル製産高		輸入高	
	數量	價額	數量	價額
四十年	九六、二六六	二、〇三七、九九〇	三五、八一〇	六〇二、六〇一
三十九年	九一、二六五	二、〇三七、九九〇	五一、五一五	八五〇、一五二
三十八年	八五、四〇四	一、九〇七、〇七一	四六、二五六	七五四、〇四二
三十七年	八三、九二八	一、八七四、一一二	二七、七二七	四三二、六〇六
三十六年	四八、七六三	一、〇八八、八七八	三九、〇八八	四八八、二八一
三十五年	四八、四六四	一、〇八三、二〇一	二四、四六一	三二四、六五一
三十四年	四九、七八七	一、一〇一、七四四	二三、四五五	三〇八、三八一
三十三年	三一、二〇八	六九六、八七五	四三、四七九	六二四、八二八

2-1326



三十二年 一七一九四 三八三九四二 二〇九八一 二八九三九四
 三十一年 一四五〇九 三〇五九二二 三五六二三 四〇一三四四

備考 本表中新潟縣下ニ於ケル製産高ハ長
 岡嶺業會議所ノ調査ニ依ル

一、内國製品ト外國製品トノ優劣
 内國製品ハ外國製品ニ比シ一般ニ其品質劣
 等ナリ而シテ外國製品ノ優良ナル点ハ引火
 点高ク且ツ粘カノ強キコト等ニアリ從テ機
 械ノ逆轉上安全ヲ計ラントセハ勢ヒ外國製
 品ヲ使用セサル可カラズト云フ而シテ普通
 需用最モ多キマシン油及エシエンジン油、如キ
 外部用油ハ内國製品モ其品質稍外國製品ニ
 近似セルヲ以テ粗悪ナル機械ニ之ヲ使用ス

ルモ敢テ故障ナシト雖モシリンドル油、スピ
 ンドル油、アールブ油及ダイナモ油等ノ如キ
 内部用油ニ至テハ内國製品ノ外國製品ニ及
 ハサルコト遠ク外國製品ニアラサレハ安心
 シテ之ヲ使用スルコト能ハスト云フ
 如斯内國製品ノ外國製品ニ及ハサルモノハ
 蓋シ原油ノ性質上外國製品ノ如キ良好ナル
 モノヲ精製シ得サルニ因ルモノナラン

2-1326



ミ子ラルコルザ油

一 輸入数量及價額

年	数量	價額
四十一年	六六三、五〇〇石	二二〇、七二六圓
四十年	四三三、九四四石	一四二、六二六圓
三十九年	二九三、六七三石	二二七、一五八圓
三十八年	二一五、九一三石	一二七、七三六圓
三十七年	一四八、九四一石	九三、七一五圓
三十六年	九四、九三六石	四九、四二四圓
三十五年	二五、七七一石	九、六五四圓

本品は北米合衆國ヨリ輸入スル。大部ヲ占メ四十年三十八年兩年、如クハ全然全國ヨリ輸入セリ

二 價格ノ高低

本品ノ價格ハ四十年中ニ於テ一匁(十米瓦入)四円八十錢トシテ四十年ニ於テハ二回ノ値上ヲナシ五円二十錢トシテ九円七十錢トナレリ然ルニ今四十二年ニ入リテハ十錢方下落シテ五円六十錢トナリ

三 輸送荷造ノ方法

石油ト全一ナリ

四 需用ノ程度

本品ハ高度ノ火止油ニシテ主トシテ燈用ニ供セラルル而シテ本邦ニ於テ最モ多ク需用セラレハ汽車ノ点燈用ニシテ之ニ種油ヲ混シテ使用ス因ニスタンダード會社東京支店

ニ於ケル一ヶ月ノ販賣高ハ一千函内外ナリ
ト云フ

五、輸入高

本品ヲ輸入スル商店ノ重ナルモノハ紐育ス
クシダード、オイル會社ナリ

六、内國製品ノ有無

本品ハ燈油ト重油トノ中間ニ位スルモノニ
シテ高度(三百度)ノ火止燈油ト稱スハナシ
ニシテ本邦ニ於テハ之レカ製出ナシ蓋シ本
邦産原油ハ其性質上本品ヲ精製スルニ適セ
サルニ因ルモノナラン

2-1326

0115

第八類 油脂及蠟

一七二 燧油

出回 次山局

一、原油

甲 二十リ起一リルモノ
 乙 二十リ起一リルモノ
 丙 二十リ起一リルモノ
 丁 二十リ起一リルモノ
 戊 二十リ起一リルモノ
 己 其他
 但百分率四十五以上一リ増ス毎
 十米カロンニ付一リ増ス毎
 二、其他

現行國定税率

改正國定税率

每十米カロンニ付
 二十リ
 二十リ
 二十リ
 二十リ
 二十リ
 二十リ
 二十リ

抵置

概成十五度ニ於ケル以テ

甲 二十リ起一リルモノ

乙 二十リ起一リルモノ

丙 其他

備考 蠟油ニ付テハ 概定税率ノ 締結シ不可トス

後候ニ割

抵置

右理由

現行燧油ノ税率ハ 昨明治四十一年四月一
 日法律第百四十一号ヲ以テ改正發布シ本年
 四月一日ヨリ實施セラレタルモノニシテ
 其内原油ニ付テハ 改正發布ノ降充分ニ審
 議調査ヲナシタルモノニ屬シ 尔後内外ノ
 状況ニ格別異動ヲ認メサルヲ以テ之レヲ

変更スルノ必要ナク又原油以外ノ鉱油ニ
付テモ日下我國石油鉱業ノ状況ニ照シ輸
入税率ノ変更スルノ必要ナキニ因ル
但我國石油産業ノ将来ハ何時ニテモ輸入
税率ノ増減ヲ行ヒ得ルニトシ留保スルノ
必要アルヲ以テ懷定税率ノ締結ヲ不可ナ
リトス

参照

一 原油

輸入数量及國別輸入原油ノ價格運賃諸條
及保險料輸送方法輸入者輸入原油ヨリ精
製スル品類

二 石油

輸入数量及價格國別輸入数量及價格輸入
港別再輸出國別輸入増減ノ事實及其原因
價格ノ高低需要ノ程度荷造ノ方法世界ニ
於ケル原油ノ産額輸入高ノ別内國品ト外
國品トノ比較

三 機械油

各年輸入数量及價格并ニ國別再輸出数量
價格并ニ國別輸入増減ノ事實及其原因價
格ノ高低輸送荷造ノ方法需要ノ程度及將
来ノ見込生産地ノ生産額輸入高ノ別輸入
品ト競争スル内國品ノ有無内國製品ト
外國製品トノ優劣
四 ミ子ラルコルサ油

2-1326



輸入数量及價格價格ノ高低輸送荷造ノ方
法需要ノ程度輸入高内國製品ノ有無

右別記ニ記載ス
其當業者ノ希望大要左ノ如シ

日本郵業會ハ裁石油郵業ハ通商進歩ノ域
ニテリト雖モ猶僅カニ全消費額ノ三割ヲ
供給シ得ルニ過キス如何ニ保護獎勵ノ途
ヲ尽ス又需要日ニ加ハリ隨テ流入シ来ル
外油ヲ驅逐シ得ルキ程度ニ達セヨトハ
殆ント不可能ノ事實ニ屬スルヲ以テ今回
ノ関稅率改正ニ關スル大體方針ハ適度ノ
関稅ニヨリ本邦ノ郵業ヲ保護シ以テ之ノ
カ發達ヲ計ルニアリトシ而シテ其程度ヲ

現行關稅以上ニ高ムルハ後テニ消費者ノ
負担ヲ增加セシムルモノナリト茲論セリ
只現行稅種ノ區分ハ其當ヲ得サルヲ以テ
更ニ之レヲ原油稅燈油稅揮發油稅機械油
稅洋油稅パラフィンワックス稅ノ六種ニ改正區
分シ厚油稅ハ含有燈油分ノ從價五割燈油
稅ハ從價五割即元價十「カルロ」ニ付一「円」九
十二錢トシ關稅十「カルロ」ニ付九十六錢揮發
油稅ハ從價二割即元價十「カルロ」ニ付一「円」
九十錢トシ關稅十「カルロ」ニ付三十八錢機
械油稅ハ從價五割洋油稅ハ從價二割即ケ
平均約二百八十五斤ヲ一石トシ元價六十
錢即關稅十「カルロ」ニ付十二錢パラフィンワックス

2-1326



税ハ融解点抵氏五十度幸満ヲ魚稅其他ヲ
 百斤ニ付一円三十錢ニセシテ希望セリ
 鑛山懇請會ハ石油ヲ收定稅率トセス隨時
 必要ニ應シテ稅率ヲ増減スルコト、シ現
 行法ノ稅率ヲ繼續シ尚ホ必要ナルトキハ
 之レヨリ重稅ヲ課セムコトヲ希望セリ
 要之ニ二者共ニ現行稅率ノ程度ヲ維持セ
 ムコトヲ希望スルニ於テ一致ス

一七四 ハラフオンワックス

一、融解点抵氏五十度幸満 十度幸満 二、其他	現行國定稅率 稅率 稅率 稅率	改正國定稅率 稅率 稅率 稅率
每百斤一円三十錢 七分乃至一割	魚稅 稅 稅 稅	全 振 置

右理由

輒近我國ニ於ケル西洋蠟燭ノ需要漸次増
 加スルニ伴ヒ本品ノ生産品ヲ要スルコト
 益多キヲ感スルモ我産額ハ皆無ニシテ特
 未亦之レヲ得ルノ見込乏シキニヨリ現行
 關稅ヲ多ムルハ國家經濟上決シテ其當ヲ
 得タルモノニアラス尤々本品ノ輸入ハ本
 邦ノ木蠟生産者ニ影響ヲ及ボスモノナレ
 バ之レカ減稅又亦頗ル考慮ヲ要スル問題
 ナレバ之レヲ振置テ穩當ナリト思考ス
 ルニヨル

参照

一、輸入数量再輸出数量輸入國別輸入増減ノ

2-1326

0120

事實、價格ノ高低、荷造ノ方法、用途及需要ノ
程度、輸入高ノ別及再該輸入品ト競争ス、
キ内國品ノ有無等別紙調査書ニシテ
ニ當業者ノ希望

福岡縣農會長ハ管内ノ木蠟生産業者ノ昨
今、萎微不振ヲ極ムルハ其由未スル知本品
ノ輸入ニテリトレ之ヲ保護助長セムカ
ニ現行保額ノ課税ヲ必要トシ又膏度ノ
す、現行保額ノ課税ヲ必要トシ又膏度ノ
數ヲ昂メシムルヲ得ルヲ以テ現行税率ノ
廢止レ、ソツキ原料タル、キ本品ノ低度品
ニハ戻稅ノ方法ヲ取ラシ、テ希望セリ

日本鑛業會ノ意見ハ前番廢油ノ参照ニ基
記セルカ如シ

2-1326

0121

秘

關稅定率法輸入稅表中改正案

番號	品名	單位	稅率
一〇	米及穀	每百斤	〇・四三
	一 粃	同	〇・五六
	二 玄米	同	〇・六六
	三 白米	同	〇・六六
	四 其他	從價	一割五分
三八	鳥獸肉及魚介類		
	三 其他		
	丁 鹹魚		
一七二	礦油		無稅
	一 原油	十米ガロソ	〇・四八
	但三割濕煎		
	氏百二十度		
	關於蒸餾		
	原液，容量百對		
	増又每三錢		
	二 其他		
	甲 攝氏十五度		
	於比重		
	七三〇未滿		
	乙 攝氏十五度		
	於比重		
	七八五ヲ超		
	丙 攝氏十五度		
	於比重		
	七八五ヲ超		
	每百斤		
	從價		
	二 割		
	十米ガロソ		
	〇・九六		
	一・二三		

2-1326

